

複式授業と少人数指導のあり方

— 公開複式模擬授業とパネルディスカッション —

中川 並 樹 滝川 敦 善 渥美 清 孝
(標茶町立磯分内小学校) (釧路市立昭和小学校) (釧路市立芦野小学校)

A Teaching Strategy and a Teaching Method for Small Group Lessons and Multi-grade Class in Rural Small School

— A Trial Lesson in a Multi-grade Class and the Panel Discussion —

Namiki NAKAGAWA, Atsushi TAKIKAWA and Kiyotaka ATSUMI

はじめに

北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター「へき地教育研究支援部門」は、これまで、「へき地校体験実習校」の協力を得て、へき地・小規模校教育のさらなる充実を目指した共同の取り組みをすすめてきました。2010年度は標茶町立磯分内小学校と共同研究をすすめてきたところですが、本フォーラムはその一つの試みとして行うものです。

昨年度（2009年度）は、北海道教育大学へき地・小規模校教育フォーラムとして「複式授業をどう指導するか」をテーマに、学生による複式模擬授業とパネルディスカッションを行い、複式授業の実践的課題の明確化を図りました。今回2010年度のフォーラムでは、引きつづき課題をさらに深めるべく、「複式授業と少人数指導のあり方」をテーマとして、現職教員による複式授業とパネルディスカッションを行い、複式授業および少人数指導についての議論を深め、さらにへき地・小規模校教育の認識を深める機会とすべく開催しました。

フォーラムの第1部は公開複式模擬授業で、この模擬授業は、2010年11月2日標茶町立磯分内小学校において行われた「平成22年度標茶町へき地複式教育研究大会」での中川並樹先生の公開授業「低学年算数1年たしざん、2年かけ算」を、児童役の釧路校学生を相手に、指導案および教材・教具等をそのまま使って行ったものです。つづく第2部のパネルディスカッションは、その模擬授業授業者の中川先生をはさんで、前年度フォーラムのパネリスト滝川敦善・渥美清孝の両先生を加えた3名の先生方で行いました。

なお、フォーラムの開催日時は2011年2月16日（水）

14時30分～18時で、会場は北海道教育大学釧路校「小学校・へき地小規模校教育教室（304教室）」で行いました（主催 北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門およびへき地校体験実習委員会）。参加者は、学外教育関係者21名、本学教員19名、本学学生・院生32名、計72名でした。

以下、フォーラムのうち、公開複式模擬授業は割愛し、それに代わるものとして学習指導案（2010年11月2日標茶町立磯分内小学校における「平成22年度標茶町へき地複式教育研究大会」公開授業での指導案と同一のもの）とそのワークシート、複式模擬授業に先立つ授業者中川先生による模擬授業を進めるにあたっての事前説明（事前配布資料「中川学級の子ども役になられた皆さんに」・「知っておいてください」）を使っての学習ルール等の説明）とパネルディスカッションの記録を掲載します。

算数科学習指導案

日時 平成23年2月16日(水)14:45～
 (平成22年11月2日(火)第5校時)
 児童役 北府道教育大学 学生
 指導者 標準町立藤分内小学校1・2年生 計5名
 第1学年 男子1名 女子4名 計5名
 第2学年 女子3名 男子3名 計6名
 標準町立藤分内小学校教諭 中川 幸雄 合計8名

《第1学年》

1. 単元名 「たしざん」

2. 単元について

(1) 指導観

これまでに児童は、1位数+1位数の繰り上がりがない計算、10+1位数の計算を学習してきた。10の補数についても、10までの数の合成・分解で学習してきた。更に、計算のしかたを考える過程で用いる3口の数の加減についても学習してきた。

これらの既習事項をもとにして、本単元では、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法の計算方法について学習する。被加数、加数ともに1位数の計算を扱うが、計算ツール等を用いて具体的に操作をしながら被加数や加数を分解して、10のまとまりをつくらせて考えるよさを感じさせたい。

また、繰り上がりのある加法の計算のしかたのみではなく、演算決定や立式、また、日常生活を算数的にとらえる問題解決の力も育てていきたい。

(2) 単元の目標

- 1位数+1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを理解する。
- 1位数+1位数で繰り上がりのある加法の計算が確実にでき、用いることができる。

《第2学年》

1. 単元名 「かけざん」

2. 単元について

(1) 指導観

これまで、2ずつ、5ずつ、あるいは10ずつのまとまりを作った数を教える学習を行ってきた。また、長さやかさの学習では、任意単位を用いて基準量のいくつ分として全体量を表す学習をしてきている。

本単元では、これらの経験を日常の事象と具体的に結びつけ、同じ数のまとまりを意識すると全体の数がとらえやすいことに気づかせたい。更に、乗法の意味や式の表し方を理解させていきたい。

また、倍の概念も導入し、何個分を「何倍」ととらえられるようにしていく。
 乗法の意味を学習した後は、九九を構成していく。回数累加をはじめ、乗数と積の関係(乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えること)にも着目させながら、児童が自ら九九をつくり出すことを大切にしていきたい。そして、乗法の良さや九九を覚えておけば計算が速くでき、便利であることに気づかせたい。

(2) 単元の目標

- 基準量のいくつ分かにあたる量を求めることをとおして、乗法の用いられる場合について理解する。
- 乗法の場面を式に表したり、式をよんだりすることができる。
- 乗法に關して成り立つきまりを用いて、5、2、3、4の段の九九を構成する。
- 5、2、3、4の段の九九の唱え方について知り、5、2、3、4に1位数をかける計算が確実にできる。

(3) 単元の評価基準

1年生

| 関心・意欲・態度 | 数学的な考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 |
|---|--|---------------------------------|---------------------------------|
| ○繰り上がりのある加法について、計算のしかたを工夫して考えようとしたし、身のまわりの問題を解決することに用いたりしようとする。 | ○繰り上がりのある加法の計算は、加数分解や被加数分解の方法で求められることを、計算ツールなどを用いて考えることができる。 | ○繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算が正確に行われる。 | ○繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算のしかたがわかる。 |

2年生

| 関心・意欲・態度 | 数学的な考え方 | 表現・処理 | 知識・理解 |
|--|---|---|---|
| ○累加の簡潔な表現として、乗法のよさに気づき、ものを教えるときに、乗法を用いようとする。 | ○同じ数を基準量とするいくつ分を求めるときに、乗法を用いようとする。 ○累加によって5の段と2の段の九九を構成することができる。 ○累加や乗数と積の関係などを用いて、3の段と4の段の九九を構成することができる。 | ○乗法が用いられる場合を具体物で表したり、言葉や式で表したりすることができる。 ○5の段、2の段、3の段、4の段の九九が用いられる場合を式で表したり、式をよんだりすることができる。 ○5の段、2の段、3の段、4の段の九九を正確に唱えることができ、それを日常生活などで生かすことができる。 | ○乗法が用いられる場面や、乗法の意味がわかる。 ○「×」の記号の意味や用い方が、倍の意味がわかる。 ○5の段、2の段、3の段と、4の段の九九の唱え方がわかる。 ○かけられる数、かける数の意味がわかる。 |

(4) 単元の指導計画

1年生 (8時間)

| 時 | 学習内容 | 評価規準 |
|---------|--|---|
| 1 | ・牧場の場面絵を見て、加法の問題を作り、式に表す。 | ④既習の繰り上がりがない加法で解決できる問題と、そうでない問題があることに気づくことができる。 |
| 2・3 | ・9+3のような、1位数+1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを加数分解で考える。 | ④繰り上がりのある加法について、計算のしかたを考えたようにする。 ④繰り上がりがある加法の計算は、10のまとまりを作り、10とあといくつとして求められることを、計算ツールなどを用いて考えることができる。(加数分解) ④繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算のしかたがわかる。 |
| 4 本時 | ・7+9の計算のしかたを、加数分解、被加数分解で考える。 | ④繰り上がりのある加法の計算は、10のまとまりを作り、10とあといくつとして求められることを、計算ツールなどを用いて考えることができる。(加数分解、被加数分解) ④繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算のしかたがわかる。 |
| 5・6 | ・繰り上がりのある加法の計算練習と文章問題を解く練習をする。 | ④繰り上がりのある1位数+1位数の計算ができる。 |

| | | |
|-------------|--|--|
| 7・8 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算カードを用いて加法の計算練習をする。 ・ 計算カードを用いて加法の計算練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 繰り上がりのある加法を適用する文章問題を解決することができる。 ⑥ 加数と被加数の関係に着目するなど、答えが同じ計算カードを工夫して集めることができる。 ⑦ 繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算が正確にできる。 |
| 2年生 (1.8時間) | <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 同じ数ずつ串にささっている「団子」の数を調べることをおとし、(基準量)×(いくつ)の考え方を調べる。 ② 3こずつ4本分で12こという場面を式で $3 \times 4 = 12$ と表し、「かけ算」ということを知る。 ③ 5×3 の答えの求め方を考えることをおとし、乗法の答えは被乗数の累加で求められることを知る。 ④ 2つ分のことを2倍ということを知る。 ⑤ 1袋5個入りのみかんが何袋あるときのみかんの数の求め方を考える。 ⑥ 図をもとに 5×1 から 5×9 の答えを求め、5の段の九九を構成する。 ⑦ $5 \times 1 = 5$ を「五一が5」と唱え、このよきな唱え方を九九ということを知る。 ⑧ 5の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ⑨ 5の段の九九を、カードを用いて練習する。 ⑩ 2人がけのいすは何個あるときに、全部で何人座れるかを求めることをおとし、2の段の九九を構成する。 ⑪ 2の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ⑫ 2の段の九九を、カードを用いて練習する。 ⑬ 1パック3個入りのゼリーが何パックあるときの個数を求めることをおとし、3の段の九九を構成する。 ⑭ かけられる数、かける数の意味を知る。 ⑮ 3の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ⑯ 3の段の九九を、カードを用いて練習する。 ⑰ 3の段の九九の唱え方を知る。 | <p>評価規程</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 具体的な操作活動を進んで行い、全部の数を求めようとする。 ② 同じ数を基準量とするいくつ分で求める乗法の必要性やよさに気づくことができる。 ③ 乗法が用いられる場合を具体物で表したり、言葉や式で表したりすることができる。 ④ 乗法が用いられる場面や、乗法の意味、「かけ算」の用語、乗法の式がわかる。 ⑤ 乗法の答えは被乗数の累加で求められることができる。 ⑥ 乗法の答えは被乗数の累加で求められることがわかる。 ⑦ 倍の意味がわかる。 ⑧ 長さのような連続量の場面にも乗法の式に表せることがわかる。 ⑨ 5の段の九九の構成に連んで取り組もうとし、乗法のよさに気づき、進んで用いようとする。 ⑩ 累加によって5の段の九九を構成することができる。 ⑪ 5の段の九九を正確に唱えることができる。 ⑫ 2の段の九九の構成に連んで取り組もうとし、乗法のよさに気づき、進んで用いようとする。 ⑬ 累加によって2の段の九九を構成することができる。 ⑭ 2の段の九九を正確に唱えることができる。 ⑮ それを日常生活などで生かすことができる。 ⑯ 2の段の九九の唱え方がわかる。 ⑰ 累加や乗数と積の関係などを用いて、3の段の九九を構成することができる。 ⑱ かけられる数、かける数の意味がわかる。 ⑲ 3の段の九九を正確に唱えることができる。 ⑳ それを日常生活などで生かすことができる。 ㉑ 3の段の九九の唱え方がわかる。 |

| | | |
|-------|--|--|
| 13 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1パック4個入りの電池が何パックあるときの個数を求めることをおとし、4の段の九九を構成する。 ・ 乗数が1増えたと横はいくつ増えるかを調べる。 ・ 4の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・ 4の段の九九を、カードを用いて練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑭ 4の段の九九の構成に連んで取り組もうとし、乗法のよさに気づき、進んで用いようとする。 ⑮ 累加や乗数と積の関係などを用いて、4の段の九九を構成することができる。 ⑯ 4の段の九九を正確に唱えることができる。 ⑰ それを日常生活などで生かすことができる。 ⑱ 4の段の九九の唱え方がわかる。 ⑲ 身のまわりで乗法が用いられる場面が数多くあることに気づき、乗法を進んで用いようとする。 ⑳ 乗法が用いられる場面や、乗法の意味がわかる。 ㉑ 2の段から5の段までの九九表を見て、乗数と積の関係などのよさに気づくことができる。 ㉒ 九九表の見方を知る。 |
| 14・15 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面絵から乗法の式で表せるものを見つけて問題を作る。 ・ 九九表に2の段から5の段までの九九の答えを書き込む活動をとおして、九九表の見方を知る。 ・ 2の段から5の段まで書き込まれた九九表を見て、気づいたことを発表する。 ・ たしかめてみよう(単元のまとめ) | <ul style="list-style-type: none"> ⑳ 九九表の見方を知る。 ㉑ 九九表の見方を知る。 |
| 16 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 九九表の答えは被乗数の累加で求められることを知る。 ・ 九九表のよさを調べる。 ・ 九九表のよさを調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑳ 九九表のよさを調べる。 ㉑ 九九表のよさを調べる。 |
| 17 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 九九表のよさを調べる。 ・ 九九表のよさを調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑳ 九九表のよさを調べる。 ㉑ 九九表のよさを調べる。 |
| 18 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 九九表のよさを調べる。 ・ 九九表のよさを調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ⑳ 九九表のよさを調べる。 ㉑ 九九表のよさを調べる。 |

3. 児童について (個人情報につき一部省略)

(1) 全体的傾向

5人とも算数の授業には楽しく参加している。操作活動やゲーム的な要素を取り入れた学習には、全員大変意欲を示し学習している。

～中略～

複式の学習には慣れ、前後学習時には課題に取り組むことができるようになった。自分たちで話し合ったり、追求したりすることはまだできないが、少しずつ取り組み始めていく。

(2) 児童一人一人の単元別の実態

| 単元名 | 児童 | A | B | C | D | E |
|------------|----|---|---|---|---|---|
| いくつかな | | | | | | |
| なんぼんめ | | | | | | |
| いくつといくつ | | | | | | |
| せんぷでいくつ | | | | | | |
| のこりはいくつ | | | | | | |
| どれだけおおい | | | | | | |
| 10よりおおい | | | | | | |
| えやずでせいりしよう | | | | | | |
| 3つのかげのたしざん | | | | | | |
| かたあそび | | | | | | |

3. 児童について (個人情報につき一部省略)

(1) 全体的傾向

3人とも意欲的に学んでいる。仲良く考えを出し合っており、自分たちで学習を進めていくこともできるようになってきた。

～略～

(2) 児童一人一人の単元別の実態

| 単元名 | 児童 | F | G | H |
|----------------|----|---|---|---|
| 時刻と時間 | | | | |
| たし算の筆算 | | | | |
| ひき算の筆算 | | | | |
| 長さ (1) : cm mm | | | | |
| 100より大きい数 | | | | |
| 何十、何百の計算 | | | | |
| 100より大きい数のひき算 | | | | |
| 形づくり | | | | |
| ちがいを考えて | | | | |
| たし算とひき算の筆算 | | | | |
| 水のりよう | | | | |

(3) 児童の状況と授業で期待する姿

| 児童の状況 | 授業で期待する姿 |
|-------|---|
| A | 友だちの発表を聞いて、計算のしかたがわかる。繰り上がりの計算のしかたが理解でき、正しく計算できる。 |
| B | 計算の方法を思いついたり、みんなの前でそれをやってみせたりする。 |
| C | 友だちの発表を聞いて、計算のしかたがわかり、自分でもやってみようとする。ダイヤルを用いながら、答えを求めることができる。 |
| D | 計算の方法を思いついたり、友だちの発表を聞きながら、自分でもみんなの前でやってみせたりする。 |
| E | 友だちの発表を聞いて、計算のしかたがわかり、自分でもやってみようとする。友だちに教えてもらったり、ダイヤルを用いながら、答えを求めることができる。 |
| 2年生 | |
| F | 1あたりの数の意味がわかる。1あたりの数から全部の数を求めることができる。 |
| G | 具体的な操作活動を通して、全部の数を求めるには、1あたりの数がわからなくてはならないことに気づく。 |
| H | 具体的な操作活動を通して、全部の数を求めるには、1あたりの数がわからなくてはならないことに気づく。 |

4. 本時案 (4/8時)

- (1) 本時の目標
- ・10のまとまりを作り、10とあといくつとして求められることを、計算ダイヤルなどを用いて考えることができる。(数学的な考え方)
 - ・繰り上がりのある1位数+1位数の加法の計算のしかたがわかる。(知識・理解)

4. 本時案 (18/1時)

- (1) 本時の目標
- ・団子(色画用紙)を並べながら、進んで全部の数を求めようとする。(関心・意欲・態度)
 - ・「全部の数」を求めるためには、「1あたりの数」がわかることが大切であるということが理解できる。(知識・理解)

(2) 本時の展開

| 第1学年 | 第2学年 |
|---|--|
| <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の練習問題に取り組み。(加数分解の問題) | <p>教師の支援・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題プリントを配布する。 ※この中に、本時の課題になる下の問題をまとめておく。 |
| <p>広げられる</p> <p>⑤</p> | <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団子は全部で何個かな? |
| <p>つかむ</p> <p>⑤</p> | <p>教師の支援・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 「団子の数を当ててみよう。」 <p>だんご●の「せんぶの数」をよそう。</p> |
| <p>つかむ</p> <p>⑤</p> | <p>《ガイド学習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実際に紙に●をのりで貼って予想してみよう。 ～串は3本あるね。 ～1本に何個ささっているのかな? ～1本に何個ささっているのかな? ～1本に刺さっている数が違くと予想が難しい場合のヒントカードを用意しておく。 ～1本に刺さっている団子の数は同じ。 |
| <p>考える</p> <p>⑤</p> | <p>※ガイド③まで早く終わった場合は、1本あたりの団子のバラバラの団子の数を数えながら、正確に答えを求めよう。</p> |

| | | | |
|-----------------|-------|--------|----------|
| 2年生 | F | G | H |
| 算数は好きか | 好き | 好き | 普通 |
| その理由 | 楽しい | わかりやすい | 楽しいときは大変 |
| 算数は得意か | 得意 | 普通 | 普通 |
| 楽しかったもの | 水のりよう | 水のりよう | 水のりよう |
| 難しかったもの | 長さ | なし | なし |
| かけざんテスト (プレテスト) | 点 | 点 | 点 |

6. 板書計画

1年生

11/2 たしざん

ほんが、あかいほこに 7 さつはいつています。
ほんが、しろいはこに 9 さつはいつています。
ほんは、ぜんぶで なんさつですか。

しき

こたえ 16ばん

2年生

11/2 あたらしいけいさん

だんご●の「ぜんぶの数」を よそうしてみよう。

チャレンジ

児童名 F 児童名 G 児童名 H

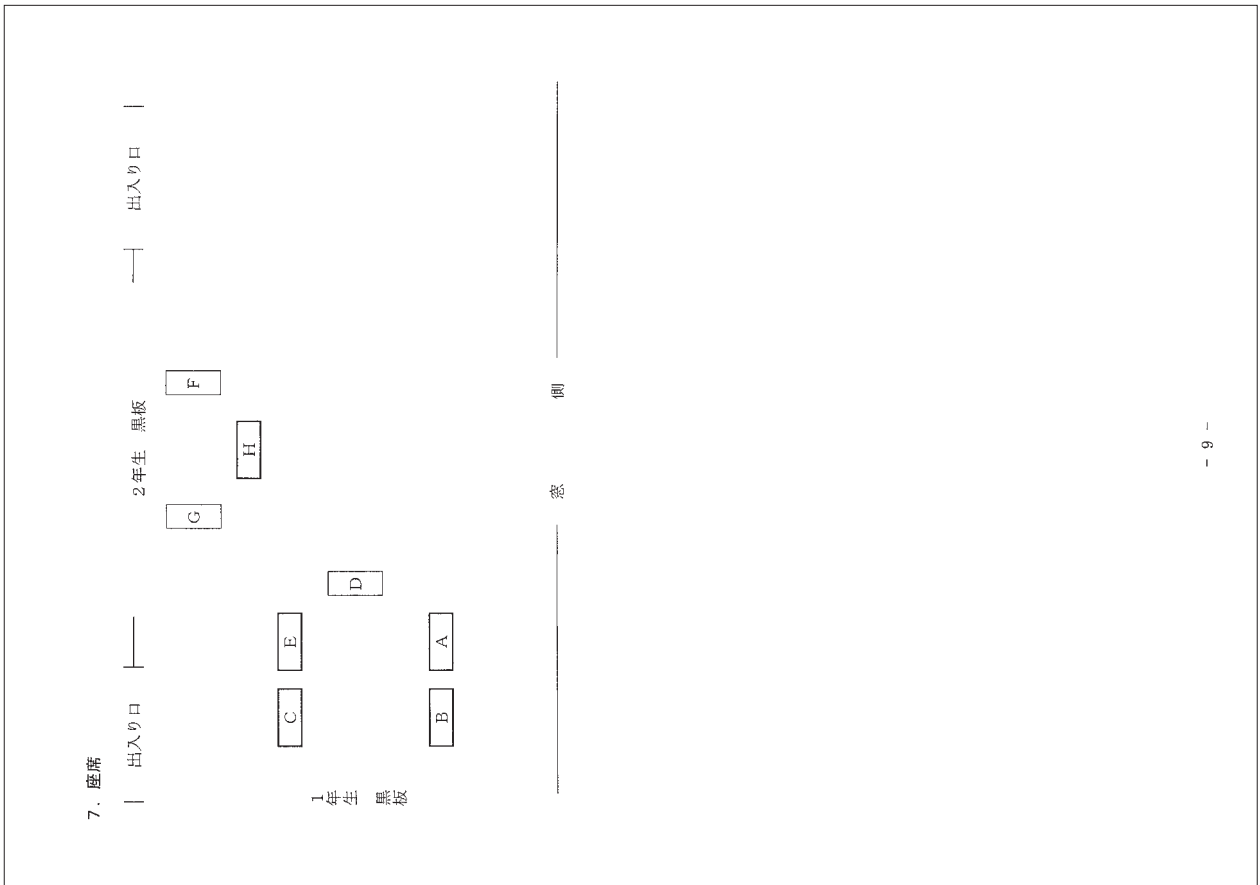
| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>⑥ $7 \times 9 = 16$</p> <p>～たしざん～とされた数 のどちらでも10に しやすいう方で計算 するといひんだな。</p> | <p>認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワーキングシート用意 ④ 被加数分解での計算のしかたが理解できたか。 | <p>数当てにも挑戦させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒント2 「一本にささってある団子の数は連う。」 ⑤ 色画用紙を並べながら進んで全部の数を求めようとしていたか。 | <p>る数が違うから、はすられたよ。</p> |
| <p>・練習問題に取り組む。</p> <p>～どちらの数も10にしようかな？</p> | <p>・加数分解で考えた方が容易な問題、被加数分解で考えた方が容易な問題、どちらでも良い問題、パターン分けした練習問題を意用する。</p> | <p>・予想が当たった理由やはずれた理由について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉「一本あたり全部の数」について確認する。 ⑤ 《全部の数》求めるには《1本あたりの数》が必要なきことか。 「次の絵には団子いくつかくれてあるだろう。」 | <p>「1本あたりの数」がわかると、「全部の数」がわかるんだ!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度は、「1本あたり4こ」だから広だ! <p>・練習問題をやる。</p> |



5. 資料 (児童の実態～アンケート・レディネステスト・プレテストより)


事前以下の項目で、算数の学習に対する意識調査を行った。

- 算数は好きですか。
- その理由は?
- 算数は得意ですか。
- 算数の勉強で楽しかったものは?
- 算数の勉強で難しかったものは?
- レディネステスト (1年生 10までのたし算・ひき算)
- プレテスト (1年生 繰り上がりのたし算 2年生 かけ算)

| | | | | | |
|------------------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 1年生 | A | B | C | D | E |
| 算数は好きか | 好き | 好き | 好き | 好き | 好き |
| その理由 | 楽しい | おもしろい | わかりやすい | たのしい | かんたん |
| 算数は得意か | ふつう | 得意 | 得意 | 得意 | 苦手 |
| 楽しかったもの | かたちあそび | かたちあそび | かたちあそび | かたちあそび | PCでのたしざん |
| 難しかったもの | なし | なし | ひきざん | なし | ひきざん |
| 10までのたし算 (レディネス) | 点 | 点 | 点 | 点 | 点 |
| 10までのひき算 (レディネス) | 点 | 点 | 点 | 点 | 点 |
| くり上がりのたし算 (プレ) | 点 | 点 | 点 | 点 | 点 |



| | | |
|-------------|-----|---|
| たしざん れんしゆう⑤ | なまえ | <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; height: 150px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="font-size: 12px; text-align: center;"> きようは、うしろに たくさんの 人 がいるようだな。 ん？ よそみ しているのは、たれだ？ がんぼつて、 べんきよう するんだぞ。 『なぞのマラソンおとこより』 </p> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;"> 《もんだい1》 ほんが、あおいはこに 7さつ はいっています。 しろいはこに、9さつ はいっています。ぜんぶ で なんさつ ですか。 </p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;"> しき + = </div> <div style="text-align: center;"> 10  </div> <div style="margin-left: 10px;"> ことえ </div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100px; margin-top: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="font-size: 14px;">ほかの けいさんの しかた</p> <p style="font-size: 14px; margin-top: 10px;">しき</p> </div> |
|-------------|-----|---|

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-----------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|--|
| たしざん れんしゆう⑥ | なまえ | <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; height: 150px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="font-size: 12px; text-align: center;"> うらも あったのだ。 さくらんぼは、じぶんで かくんだぞ。 はやく おわった 人は、こまっている 人が いたら、ミニせんせいになつて たすけるんだよ。 </p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">① 9 + 7 =</td> <td style="width: 25%;">② 8 + 4 =</td> <td style="width: 25%;">③ 7 + 5 =</td> <td style="width: 25%;">④ 9 + 2 =</td> </tr> <tr> <td>⑤ 8 + 5 =</td> <td>⑥ 8 + 3 =</td> <td>⑦ 9 + 3 =</td> <td>⑧ 7 + 4 =</td> </tr> <tr> <td>⑨ 8 + 7 =</td> <td>⑩ 9 + 4 =</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> | ① 9 + 7 = | ② 8 + 4 = | ③ 7 + 5 = | ④ 9 + 2 = | ⑤ 8 + 5 = | ⑥ 8 + 3 = | ⑦ 9 + 3 = | ⑧ 7 + 4 = | ⑨ 8 + 7 = | ⑩ 9 + 4 = | | |
| ① 9 + 7 = | ② 8 + 4 = | ③ 7 + 5 = | ④ 9 + 2 = | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 8 + 5 = | ⑥ 8 + 3 = | ⑦ 9 + 3 = | ⑧ 7 + 4 = | | | | | | | | | | | |
| ⑨ 8 + 7 = | ⑩ 9 + 4 = | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------------|-----|
| たしざん れんしゆう⑦ | なまえ |
|-------------|-----|



『ほかの けいさんの しかた』
わかったかな？ れんしゆうし
てみよう。

① $3 + 9 =$ $4 + 8 =$

③ $2 + 9 =$ $4 + 7 =$

⑤ $4 + 9 =$ $3 + 8 =$

⑦ $2 + 9 =$ $5 + 8 =$

ミセンせい、おねが
ね。

あたらしい計算 ①

今日は、だんごのおいがぶんぶんするな。「ぜんぶの数」をあてないと、わたしがたべてしまうぞ。
『なぞのマラソン男より』

1. 「1」のかかれているだんごの「ぜんぶの数」をよそうしよう。

①紙にだんごの数をよそうして「だんご」をならべる。ならべたらのりでは、マジックで、数を□に書く。(だんごは、ぜんぶ、くににささっている。ヒントカードあり。)

②できあがったものを こくばんのじぶんの名前の下にはる。

③よそうした数と、よそうの理由をこくばんの前でひとりひとり発表する。どうしてもゆりゆうがなければ、「かんです。」でもよい。でも、できるだけ考えて！

わたしのよそうは、〇こです。そのりゆうは、〇〇です。

④オレンジの画よう紙をはがして、しらべる。あつたっていたらよろこぶ。はずれたらくやしがる。

2. 「2」のかかれているだんごの「ぜんぶの数」をよそうしよう。やりかたは、「1」のときとおなじです。

あたらしい計算 ②

「ぜんぶの数」を見つけるには、「1本あたりの数」がわからなくてはいけなことが、わかったかな？
れんしゆうもんだいだ！

1. 「かかれている」だんごは、ぜんぶでなんこでしょう。

ぜんぶで 〇こ

ぜんぶで 〇こ

ぜんぶで 〇こ

★だんごの「ぜんぶのかず」をよそうしよう。

名前



は、ぜんぶで

こ

中川学童の子ども役になられた皆さんへ

2011. 2. 13



こんにちは。標準市立磯分内小学校の中川並樹です。はじめに、簡単に自己紹介しますね。

私は、二十年以上前に教育大学剣路校（当時は剣路分校でした）を卒業し、小学校の教員をやっています。期限付き採用時代も含めると苫小牧市、伊達市、厚岸町、そして標準町で勤務しています。

学生時代は、好きなことをやってばかりで、まじめに勉強した記憶がありません（教育実習だけはがんばりました）。自動車に荷物をたくさん積んで、全国各地、お隣の中国で放浪の旅をしたり、山に登ったりばかりが思い出です。2月に野宿しながら、自転車で剣路から宗谷岬まで、吹雪のオホーツク路を北上したのは4年生の時でした。

今は、さすがにそういうことは、時間的にできませんから、日マトレニングしながら、マラソン&トライアスロン人生を？楽しんでいきます。

現在、標準町で陸上少年団の指導をしていますので、陸上部の人がもしましたら、剣路の陸上競技場で会っているかもしれませんね。

今回は縁があって、皆さんの1日担任をすることになりました。『なぜか？』ということになると、全くもって不思議なのです。でも、せつかくの機会ですから、皆さんと一緒に楽しみたいと思います。授業当日は、きっと私自身緊張して思いだと思いますが、私以上に皆さんの方が緊張してしまうかもしれませんね。でも、皆さん自身が小学校1・2年生だったころを思い出して、気軽に授業を楽しんでくれるとうれしいです。

では、お会いできるのを楽しみにしています。

知っておいてください

以下、授業を受ける前に知っておいてほしいことを簡単に書いてみました。当日は、以下のことを頭に置いて学習してくださいね。

磯分内小学校の1年生も2年生も入学してから現在まで、ずっと私が担任をしています。学習の仕方については、いろいろな約束事があります。私と子ども、お互いのアイコンタクトだけで意思疎通できることも多くあります。きっと、どの学校のどの学年にもそれらはあるでしょう。

学習の場面（間接学習時など）によっては、指示をしなくても、子どもがどんどん学習を進めていけるように成長とともになっていきます。また、そうなるように学習訓練を意図的にしていきます。そうしていかない学習は成立しにくくなるのです。

学習訓練という意味では、今回皆さんは、入学したばかりの1年生と同じなのです（怒らないでください）。ここで、いくつか、事前に知っておいてほしいことを書こうと思います。本当は、たくさんあるのですが、本時に関わる部分だけです。もしかすると、十分でないかもしれませんが・・・。

■授業当日まで学習してきたこと(本時に関係する内容のみです)

■1年生

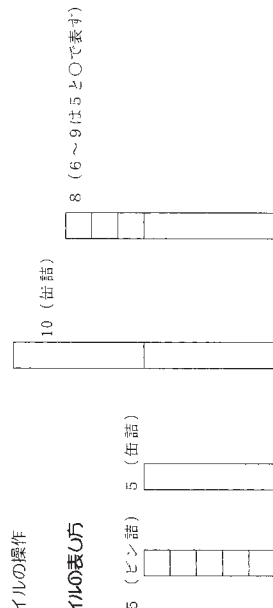
- 20までの数の構成・順序・大小
- 10までの数の合成・分解およびたし算・ひき算
 - ・2と6で8、7は5と2、4+3=7、8-2=6など
 - 10といくつ（10と3で13 など）
- さくらんぼげいさん 18



3つのかすのけいさん（3+2-1=など）

計算スタイルの操作

※ タイルの表ひ方



※ タイル置き場



子どもの机には、名前シールが貼ってあります。シールのあたりを「タイル置き場」にするといい約束を子どもたちとしています。机の右上です。学習が始まる前に、「タイル置き場に5の缶話2ことばのタイル8こあげておいてね。」などと指示をすることがあります。

1年生入学当初は、よくタイルをバラバラ落とすのですが、2学期になると、慣れて、そんなことはなくなってきました。

■2年生

- 3位数+2位数(答えは3位数)のたし算
- 3位数-2位数のひき算
- 1000までの数の構成・順序・大小
- 2ずつ、5ずつ、10ずつ数える
- 時計の5分、10分、15分など
- 長さや、かさなど任意単位のいくつ分

■学習の仕方(特に間接学習時)

■2年生

リーダー学習

毎時間ごとにリーダーを決めて、リーダーを中心に教師の指示を受け学習を進行させる。(リーダーは交代で全員が行っています。)

・答え合わせ

- リーダー：1番目の答えは何ですか。Aさんどうぞ
- A : O×△です。
- 全員 : いいです。 など

・話し合い

- リーダー：OOについて意見を述べてください。
- A : わたしはOOだと思えます。
- B : わたしはAさんと同じで(違って、ちょっと違って、など)OOです。理由は～です。
- リーダー：ほかの意見はありませんか など

■ガイド学習

リーダー学習を一步進めています。リーダーがガイドになり教師に代わって学習を進行させます。

・・・当日、2年生袋の中から誰かにガイドをお願いします。どのように進ませるか、始める前に教師と確認をします。進捗の仕方は、これまでのような取り組みを行いました。

【ワークシートの利用】

ワークシート(全員に配布)に学習の順序が書いてある。リーダーがワークシートを声に出して読み(あるいは、誰かに読んでもらい)、その指示手順に従って学習を進める。

【紙芝居風】

一つの学習活動を終え、次の紙芝居をめくるとメッセージや次の学習活動の指示が書いてある。

【コンピュータの利用】

大型モニター or プロジェクタを組み合わせ、子どもがクリックするたびに次の学習活動に入ることができる。主にパワーポイント、web を活用。

※リンク先によって複数の流れを選択できる。

■間接学習で時間があつたと

リーダーの判断や、みんなで話し合せてやることを決めて行う。練習プリントを持ってきて行う、似ている問題を自分で作ってノートにやる、本(教科書)を読む、漢字練習をする、パソコンで練習問題を行うなど、いろいろ、むだにボーッとしない、というのが約束

■間接学習で遅れたまじや、わからなくなったまじへ

手伝えてあげる、教えてあげる(できるだけ、答えではなくてやり方を)など協力し合って学習する。教え役の子どもを「ミニ先生」と呼んでいる。このことによって、教える方も深く理解できる。教師の意図として、一人で行わせたいときは、始める前にその旨伝えておく。

■1年生

2年生と同じようにできるようにできるように練習しているが、2年生の姿を見て学び方を学んでいる。リーダー学習には取り組んでいるが、ガイド学習は行ってない。ミニ先生は、いつも活躍中。

■そのほか

■学習のスピード

1・2年生ですから、作業をすることも、文字を書くことも、考えることも、みな時間をかなり要します。また、一人一人、そのスピードやその出来具合の程度も違います。

当日は、1・2年生役といっても、その程度がよくわからないと思います。そこで、授業中に「うちの子たちにはほしい、このくらいの時間でやりました。」と目安を話したいと思います。

もし、それでも時間が余ったら、4ページ書かれていることを思い出していただきたいね。

■持ち物

筆箱（鉛筆、消しゴム）

ノート（何でも良い、使わないかも、初の中に入れておく）

元知と文庫（1冊ずつ、ほかは忘れても大丈夫）

2年生役は、スティックのり

中川先生による事前説明

中川 よろしくお願ひします。緊張しますね、皆さんと同じ様にね。何が緊張するかっていうとね、後ろに大学時代に研究室が一緒だった方がいらっしやあってね。それから今の副学長さんの蛭田先生。本当に迷惑ばかりかけてしまったんでね。

皆に宛てた手紙（「中川学級の子ども役になられた皆さんに」・「知っておいてください」）にも書いたんだけど、暇さえあれば自転車に乗ってどっか放浪して歩いていたり、山に登って歩いていたりして、学生時代は全然勉強した記憶がありません。

高嶋先生には、何年か前に標茶小学校にいたんだけど、その時にJICAの国際協力事業で、エジプトの先生たちが教室の後ろにダースと並んで、仮説実験授業やってほしいということで理科をやったんですよ。後ろで通訳が同時通訳して、すごく変わった経験をさせてもらったのが高嶋先生です。

皆に宛てた手紙の中に今日の授業に関わって大事なかっていうことが書いてあります。ちゃんと読んでくれましたか？クイズやります。名前はいいですね？じゃあね、先生のいつもやっているスポーツ何でしょうか？手を挙げて発表して下さい。おっ、素晴らしいな。ここでやっぱり手を挙げるって分かってたでしょ。ここで、はいって手を挙げるってね。はい、リッコちゃん。

リッコ トライアスロン。

中川 正解です、素晴らしい。トライアスロン、ここで間違いがちょっとあったんだけど気がついてた？気がつかないよね。ここに佐渡国際トライアスロン大会っていうのが出て、今、行列のできる法律相談事務所、今度いっぱい芸能人走るって、来年、言ってるんだけど、水泳は何キロだったでしょう？ちゃんと見てないね。ちゃんとせっかく手紙に書いて、一生懸命書いて送ったんだけどね。はい、分かった人。これ3.0kmって書いてあるんだけど、嘘です。これ3.8kmの間違いでした。（写真1）

学習リーダーの仕事

今もあんまり真面目でなくて遊ぶことばかり、時間あれば遊ぼうと思ってます。関係ない話がどんどん続いてくね。それじゃあもう少し、今日の関係したところに行こうかな。まずはですね、学習リーダーさんのお仕事。書いていたと思うんだけど、どんなお仕事かって書いてあったかな。あれ？あ



写真1 学習ルールを説明する

れ？そうですね、手挙げづらいよね。リーダーさんね、うちのクラスでは1年生は簡単なことしかまだやってません。算数の時間だったら答え合わせ、リーダーさん中心に頼むよって言うと、1番目の答え何ですか、誰々ちゃんどうぞって言うと、何とかですって答えますよね。そしたら皆、いいですか、違ったら違いますって言ったら、じゃあリーダーさんは、じゃあもう1回皆でやって下さいって言う、そのぐらいの仕事ですよ。それから話し合いもちょびっと1年生もやってるんだけど、何々について意見を出して下さいって言ったら手を挙げて、私は何々だと思います、僕は何々だと思いますって言って、他の意見はありませんかとかって言う、リーダーさんの仕事です。

ガイド学習

ちょっと進んでガイド学習、今度は2年生ですね。ガイドさん、今日頼みますね。ガイド学習は僕の代わりっていうと、ちょっと変かも知れないけど、授業を間接学習の時に進めてもらってます。どんなふうに進めればいいのか分かんないから例えば、ワークシートみたいなのに1番目何々何々しましょうとか書いてあるんですね。その手順に沿ってリーダーさんが司会して進めています。今日もきっと出てくると思うのでよろしくお願いします。

課題が終わったときの学習ルール

それからこれはね、子どもたちにはよく言ってるんですけど、時間が余ってしまった時、きっと間接勉強している時、間接でね、先生こっちの方で1年生一生懸命勉強してる時に、「2年生が先生出来たー」て言うのは“なしだよ”っていうルールにしています。大体僕も見れば分かるでしょ。だけど、それを言わないよっていうのをルールにしています。

で、どうするか。リーダーさんの判断だとか、担任に相談して練習問題、自分で問題作ってやってみるとか、漢字の勉強だったら漢字練習するとか、教科書読むとか。それからパソコン自由に使えるんで、パソコン立ち上げてすぐ練習問題出来るようになってたりして、練習問題やってみるとか、そんなふうにしてやっています。無駄に絶対にボーっとしないっていうのは約束。これはもう絶対に頑張るんだよっていう話をして、それなりに全然関係ないこと始めるかもしれないけど頑張って2年生はやっています。

学習のスピード

それから学習のスピードなんだけれども、きっと今日は1年生、2年生の勉強だから皆あつという間に出来てしまうと思うのね。で、どうしようかなと考えてたの。指導案書く時に、自分のクラスの1年生と2年生をどう、こう育てていっていかつという観点でやっぱり指導案って作るもんだから、頭の中でその8人の子どもたちを頭の中に思い浮かべてやるので、あなた方のことは全く考えていないで作っている指導案だから、多分子どもたちこれ15分くらいかかつてやるかなあと思うところ、多分あなた方3分で終わると思いますね。時間余っちゃって、じゃあどうするかなって思ってたのね。でも、もう始まったね、授業ね。45分、15分で終わっちゃってもつまないしなと思って、最初はね、じゃあ余った時間で出来るワークシートいっぱい作っておこうかなとか、うちに高校生の娘いるんだけども、娘の数学のプリントをコピーして持ってくるかな、とかいうことも考えたりして、ここで出されてもきっと困るべなと思いつつながら、どうしようかなあと色々考えました。考えて考えて考えた結果、今日はもし時間が余ってしまったら、隣の勉強、どんな勉強してるのかなって見る時間にしたいと思います。いいですね。2年生勉強している時は1年生見て下さい。それもきっと君達に役立つことかな、なんて思いながらちょっとそういうふうを考えました。

ノートをせっかく用意してもらってるんですけども、もしかするとリーダーさん、じゃあノートに練習問題、同じの作ってやって下さいっていうかもしれない。言ったら従ってやって下さい。そんな感じでやっていきたいと思います。

これまでどんな勉強をしてきたか

あと、やりながら分かんないこと、色々うちの中川学級の1年生、どうやってるのか、きっと分かん

ないと思うんで、それはもうその時の判断で僕が解説しながら授業進めるかもしれないし、君達の判断に任せちゃうかもしれない。ただ一つだけね、1年生の方は前の時間の勉強の繋がりがあつるもんだから、そこだけちょっと知っておかないと進められないんですよ。前の時間に勉強してたの、 $9 + 3 =$ の計算の仕方の勉強しています。 $9 + 3$ の勉強なんだけれども、10を作るっていうことで、10の補数で考えようってことです。ここにあるのは、これは前の時間の板書の残りです。タイルは10になりたがってるよつてことで3を1と2に分けて、1がひゅーつとここにくつついて、10と2で答えは12という勉強をしています(写真2)。ここまではね、クリアしてました。出来てました。あと、さくらんぼ計算っていうのはちょっと書いたよね、手紙にね。これさくらんぼ(写真3)なんだけど、うちの子たちに見せたら豚の鼻だつて言つてね、一生懸命作つたのにね。豚の鼻計算でもまあいいかなつて、いいんだけども。これ勉強した時は、ちょっと書きます



写真2 前時の学習内容①



写真3 前時の学習時間②さくらんぼ

ね。ちょっと関係ないね。9 + 3 = の時、この続きなんで、9 はあと1で10になるから1と2に分けて、1と囲んで、ノートに大きく9と書いて10と書いて、10だよ。10と2で答えは12っていうような勉強を前の時間にしています。いいです？きっとこれ最初これの練習問題から後で入っていきますので、こんな感じでやってみてください。2年生の方は全く初めての勉強です。だから前時の繋がりがありません。

そしたら大体、後はどうなるか分かんないですけど、やってみましょう。

それじゃあ、日直さん、これから、5時間目の勉強始めます。皆で「始めます」で始めましょうか。はい。

公開複式模擬授業（省略）

パネルディスカッションの記録

— 複式授業と少人数指導のあり方 —

〈パネルディスカッション〉

中川 並樹（標茶町立磯分内小学校・教諭）

滝川 敦善（釧路市立昭和小学校・教頭）

渥美 清孝（釧路市立芦野小学校・教諭）

司会 川前あゆみ（へき地教育研究支援部門・
釧路校センター員）

高嶋 幸男（釧路校へき地校体験実習委員会
委員長）

司会 それではただ今から、第2部を始めたいと思います。はじめに主催者を代表致しまして、北海道教育大学副学長釧路校担当の蛭田眞一より御挨拶申し上げます。

蛭田副学長 皆様今日は。中川先生お久しぶりです。卒業生ですので久しぶりに元気な姿を見れました。

まず、釧路校にあります本学学校地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門、それから釧路校へき地校体験実習委員会主催のフォーラムに御参加いただきまして誠にありがとうございます。へき地小規模校教育は道東の教育関係者、関係各機関の支援を受けた釧路校を特徴づける教育活動の一つです。（写真4）

これはちょっと私事になるんですけども、2年ちょっと前に副学長になりまして、初めて、へき地教育フォーラム in 十勝に参加させていただきました。副学長についたばかりで、へき地小規模校教育という釧路校が関わる教育活動にはじめて参加した



写真4 蛭田副学長

わけです。フォーラムがあった懇親会で、何か小規模校教育っていうのは、マイナスのイメージというのが、すごく皆さん持ってるような雰囲気をちょっと感じたもんですから。そういう実態を全く私は知らない状態で、教師が児童や生徒に一人ひとりじっくり関わるといふ、教育のある意味好ましい状況である小規模校教育は、マイナスのイメージは全然浮かんでこないということを懇親会で言ってしまったことがありました。そのままわずかでですけども、へき地教育、それから小規模校についていろいろ少し理解が進んできました。それで今日こういう形でフォーラムがあるということは、それぞれやっぱりいろいろ課題を抱えながら、今いろんなことで研究が進んでいると思うんです。でも、やっぱり相変わらず、へき地小規模校教育にマイナスイメージは湧かないんですね。これは私の印象ですので、何か最初感じたところでマイナスのイメージが何か漂ってるなっていうのがあったもんですから、いや、そんなことじゃないんだろうかって、ごく単純な感想としてその時持った次第です。それは、ある程度状況が分かった状態でも変わらないっていうのが今の印象です。

私の印象はさておきまして、複式授業とそれから少人数指導についての認識を深める、それからその教育の充実のために議論を深めるってことは、是非とも必要なことですので、この後の今日のフォーラム、参加する皆さんの熱意で是非有意義なものとしていただきたいと思います。

簡単ですが私からのご挨拶とさせていただきます。

司会 それではここからは、パネルディスカッションとなります。ここからの司会を教育大学釧路校の高嶋先生、川前先生にお願い致します。

高嶋 それではパネルディスカッションに移りたいと思います。立ち見でしたのでちょっとお疲れかと思えますけども、よろしくお願ひしたいと思います。

最初にパネラーの先生方を御紹介したいと思います。先ほど授業をやっていただいた中川並樹先生です。標茶町立磯分内小学校で教鞭をとっています。この間、へき地校体験実習を何年間に渡ってお願ひしているところです。今年度私どものへき研と磯分内小学校で、共同研究的な関係をもっており、今日のこのフォーラムはその締めくくりの一つの形というふうに押さえていただければと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。(写真5)



写真5 中川並樹氏



写真6 滝川敦善氏

次は滝川敦善先生です。現在は釧路市立昭和小学校の教頭先生をされておりますけれども、2年前までは弟子屈町立奥春別小学校の教頭先生をされ、その前は鶴居村の幌呂小学校で教鞭をとられていて、へき地教育に長年携われてきました。どうぞよろしくお願ひ致します。一昨年の7月にこの部屋で複式の授業を学生が中心になって行いましたが、次に紹介する渥美先生とともに、その後のフォーラムのパネラーをしていただきました。今回2回目をお願いしたということになります。(写真6)

次のもう一人のパネラー、現在釧路市立芦野小学校に勤務されている渥美清孝先生です。渥美先生も標茶町や或いは釧路市内のもう統合されてしまった極小規模校の布伏内小学校で極小規模クラスを担当されてきました。どうぞよろしくお願ひ致します。(写真7)

さて、川前先生と私で司会をさせていただきますが、主に川前先生が司会をやっていただき、私はタイマー兼資料整理係という形で進めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。



写真7 渥美清孝氏

早速ですが、このパネルディスカッションの趣旨を川前先生の方から説明していただき、そのあと直ちにパネラーの先生方に話をしてもらいたいと思います。

1. パネラーからの提言

パネルディスカッションの趣旨と討論の柱

川前 今日司会を務めさせていただきます川前です。高嶋先生と適宜分担しながら進めていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

早速ですが今日のフォーラムの趣旨について説明させていただきます。(写真8)

北海道では2学年構成による複式学級、複式授業を行っている学校が数多くあります。学校現場では日々様々な教育実践が展開されています。本学ではへき地小規模校教育の更なる充実を目指した取り組みとして、昨年は学生による複式の模擬授業、今年はへき地校体験実習を受け入れていただいている磯分内小学校の中川先生をお招きして、大学生を子ども役にした複式模擬授業をご覧いただきました。こ



写真8 司会者

の会場にいる学生の多くは大学の授業でへき地教育を学んだり、学校行事にも積極的に参加してくれている学生です。小規模校での実践ですとか複式授業を学んできた学生ですが、今年度へき地校体験実習に参加してきた学生も含まれております。

本日参加された現場の先生方には、名簿を見ますと、釧路、根室、十勝地方の道東全域からお越しいただきました。様々な立場にある方々が今日の中川先生の複式模擬授業を通して、複式授業を今後どの様に実践していけばよいかを考える場にしていきたいと思っております。

パネルディスカッションの柱

- 柱Ⅰ 複式授業の構想・少人数指導の考え方
【児童の実態・・・個に応じた指導・少人数指導を積極面として授業に反映する】
- 柱Ⅱ 複式授業の指導法
【指導段階と「わたり」「ずらし」・間接指導時の見取り・両学年間接指導時の時間の活用・複式授業の学び方の習得・ガイド学習・ヒント学習】
- 柱Ⅲ 複式・少人数授業における教材内容と教具の工夫
【ワークシートの活用・学習リーダーの役割・板書計画・移動黒板の活用・座席の工夫】

今日は、この模擬授業を通して意見交流の柱を3点おきました。まず1点目は複式授業の構想、少人数指導の考え方についてです。例えば児童の実態、個々に応じた指導、少人数指導を積極点として、授業に反映するにはどうしたらいいんだろうかということところです。

2点目が複式授業の指導法についてです。指導段階と「わたり」・「ずらし」、間接指導時の見取り、両学年間接指導の時間の活用、複式授業の学び方の習得、ガイド学習、ヒントカード等です。今日の授業でも沢山そういった点が見られたかと思います。

3点目が複式少人数指導。少人数授業における教材内容と教具の工夫についてです。例えばワークシートの活用ですとか、学習リーダーの役割、板書計画、移動黒板の活用、座席の工夫についてです。

質疑の時間は50分程取る予定ですが、この3点の柱を中心にして、休憩時間にたくさんの方からいただきました。質問感想用紙からも交流していきたいと思っております。限られた時間ではありますけれども、多面的な視点で積極的なご意見をいただきたいと思います。

全体の流れとしましては、まず最初に授業者の中川先生から、今日の授業についてのコメントを10分程度いただき、その後、児童役8名のうち各学年から1名ずつ感想を述べてもらいたいと思います。そしてパネリストの滝川先生、渥美先生から5～6分程度コメントをいただいて、その後フロアの皆様から各柱15分くらいを目安に進めていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

では早速ですけれども、中川先生から今日の授業についてのコメントをお願い致します。

複式模擬授業をやってみて

中川 今日はどうも有り難うございます。今日のこの授業は、実は9月の初めに標茶町で行われたへき地複式研究大会の公開授業でやったものですが、その時にやった授業をそのまま、全く教材も皆同じくやろうっていうことでやりました。ですが、やる前に学生さんと一緒にやるっていうことでしたので、どういう反応が返ってくるかとか全く見えない中で、もう行き当たりばったりで行くしかないのかなあ、なんていうふうに思いながら授業をやりました。でもさすが実習を積まれてきている学生さんで、それぞれきつと1年生2年生の子どもの様子を思い浮かべながらやってくれたんだろうなと思って、さほどそんなに変わりはないかなと思ってます。ただやっぱり時間的にうちの子たちがやったものより早く進んでいったかな、と思いました。

授業プランをどこから考えたか

それで、最初に授業の前にも少し話をしたんですけど、柱1に関わってくるんですが、授業プランを考える時に、やっぱり目の前にいる子どもたち一人ひとりが学習の目標を達成出来るためにはどうするかっていうことを一番最初に考えて授業を作ってきました。また、どんな教材を持ってきたらいいかなっていうことも考えながら授業作りをしています。人数が今日やった人数と同じ1年生が5人、2年生が3人というクラス構成ですけれども、非常に一人ひとりいい面や大変な面もいろいろあり、一人ひとり違ってきます。当然ですよ、育ちが違う小さなまだ小学校1年生、2年生ですから。その子どもたちが皆がまず楽しんで、そして学習のねらいに到達するためにはどうしたらいいかなっていうことを考えています。あと、指導案の中にもありますが、プレテストを行ったり、レディネステストを行ったりしながら、具体的にはデータも作りながら、じゃあここら辺が頑張っておきなかなんないとかかなあ

かも考えながらやっています。

授業構成の仕方

授業の構成の仕方も、本来であれば2年生の掛け算、全く初めての概念で一番難しいところなんで、2年生にがっちりくつつかなきゃならない場所だとは思いますが、1年生の一人ひとりの差を考えた時に、やっぱり1年生に重点を置いてくつつかないと駄目だということ。だからもしかすると子どもは違うと、2年生の方にもっとしっかり時間かけて直接指導入って、1年生の方はもう少し間接指導が長くなったりってことも考えられたかもしれないです。だから、また違う子どもたちとこの授業をやるということがあったら、また違う流れになったかなと思います。

渡り・ずらしと間接指導

それから、今の話は柱2に関わってくるんですけど、柱2の方は渡りとかずらしとかっていうことになってくるんですけど、複式では4段階で指導過程を組むことがよくあります。1時間の中で今日は大体あんな感じでいっていましたが、時には1年生ちょっと大変だから1年生の方にしっかりと1時間があったり、指導過程の中であれば、課題解決の場面でこう1時間しっかりとあげるとか、単元の中で4段階が組まされているような授業構成することもあります。

それから、柱2の中の間接授業の中での見取りって書いてあるんですけど、非常に難しいです。間接でやってる時はほとんど見れていないっていうのが現実です。今日も2年生が団子貼ってる姿っていうのはそんなに見れてないし、2年生の方についてるときは、ワークシートちゃんと出来てるかなあとか心の中で思いつつもやっぱり、2年生の方に時間をどうしても取られてしまっているんで、その時間の中で見取るっていうのは非常に難しいなっていう思いながら授業やっています。そこで大事にしていきたいと思っているのが、間接指導から直接へ帰ってきた時、それまでの活動をこの子どもたちちゃんとやってたかなあ、出来たかなあ、自分たちで進められたかなあっていうところをまず確認しないといけないなっていうのを大事にしています。出来てなければ、やっぱりそこでちょっと戻る必要があるし、出来ていけばよく頑張ったねっていうことで、先に進めていくことも出来ます。

それからもう一つ、両間接指導って指導案の中に入っているんですけど、両方、間接になると両

方行ったり来たりしながら、一人ひとりの子どもたちの作業の進行具合を見ることが出来るので、両間接指導を取り入れていきたいと思っています。しかし、授業は生き物ですので、その時々の子どもの学習活動は予想している以上に時間を片っぴらに取られてしまうこともあり、そういう時は失敗したなと思ったりします。両間接指導が出来なかった経験も多くあります。その辺は非常に難しく、日々悩みながらやっているとこです。

ガイド学習

それで今日はガイド学習ってことで進めてるんですけど、僕の中では間接学習で鍛えるっていうことを念頭にいつもおいています。それはどういうことかという、教師がついていなくてもしっかり自分たちで学べる力をつけてあげたい、学び方を学ばせたいっていう気持ちがあって、時には直接指導で間接指導を行います。ややこしいですね。子どもたちも目の前で間接、僕がないので透明先生、透明人間だと言って、間接の活動を子どもたちがやっています。それを見ながら後で、こういう時はこうすればよかったねとか、ああいうふうになればよかったねというようなことも、学習訓練の中で一部として行ったりしています。特に今、来年1年生は2年生になって上位学年になりますので、4月当初の入学したての1年生は全く何も出来ないの、2年生頼むよっていうことでやってかなくちゃいけないので、その辺の力は今の3学期、これから1年生しっかり練習させている最中です。

あと、授業の要素っていろいろあったと思うんですけど、それはまた質問にも答えますし、お二人の先生方、もっとベテランなんでまた色々話してくれると思いますので、僕の方はこれで終わりにしたいと思います。

川前 今日子ども役で登場いただいた1年生2年生役の方、1名ずつ感想をお聞きしたいと思います。

まず1年生役でジュン君をやってくれた佐々木淳君に一言感想をお願いします。

佐々木 こんにちは。模擬授業でジュン君役をやった釧路校の学校教育研究室3年目の佐々木淳です。

感想なんであんまり疑問とかは言えないんですけど、模擬授業をする前に先生と話すことが出来、緊張せずに授業に臨めたので、すごい安心して楽しむことが出来ました。(写真9)

あと、先生の子どもの接し方のところで、間違っ



写真9 佐々木淳君

てもいいような声掛けとかをしていたのがすごい自分たちも発言しやすかったと思います。

もう一つが擬似学習。子どもたちが間接指導の時に自分たちでする学習のところで、いろんな説明とか道具が用意され、それを丁寧に説明していただいたので、間接指導の時に、自分たちが進んで何か目的を持って学習に取り組むことが出来、よかったと思いました。

本当に子ども役が出来てよかったです。有り難うございました。

川前 有り難うございます。続けて2年生役の新畑結香さんをお願いできますか。

新畑 こんにちは。授業より緊張します。釧路校3年目、授業開発コースの新畑結香といます。シズクちゃん役でした。(写真10)

授業を受けた純粋な感想なんですけど、本当に楽しくて。見てた人は分かると思うんですけど、団子っていうのはすごい、いいなと思いました(写真11)。掛け算だったので、最初にバラバラ来るかなと思っ



写真10 新畑結香さん

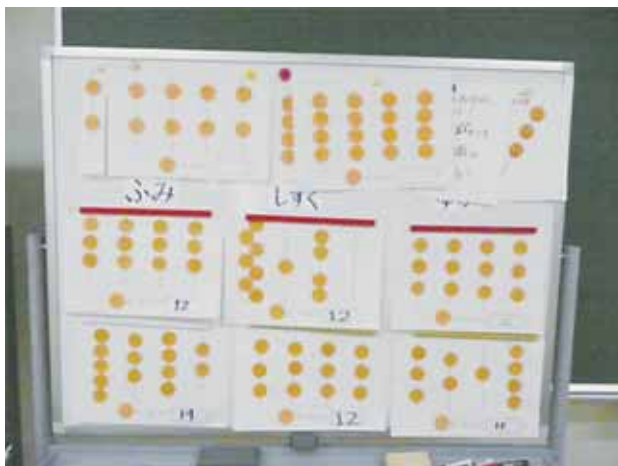


写真11 団子のかけ算教具

たんですけど、最初に団子3兄弟くるんだみたいなの。掛け算って言うと、団子3兄弟のイメージが強くなり、あっこういう展開の仕方もありなんだと、すごく思いました。

あとは意見を一つひとつ丁寧に拾ってくれて、子どもたちの言葉をきちんと皆が共有出来るように返すとか、リーダー学習の仕方とか、すごく丁寧にやられていて、丁寧に細やかな指導をされていると思いました。低学年ではこういうふうに丁寧にやっていかないといけないと思うので、大規模校とかへき地校に関係なく、こういう指導が出来たら本当にいいなと思いました。今日は楽しい授業、有り難うございました。

川前 はい、有り難うございます。授業者の中川先生と子ども役2人からご意見いただきました。次に、パネリストの先生からコメントをお願い致します。

へき地複式小規模校の教育はマイナスか？

滝川 はい、それでは先ほど紹介がありました、今、昭和小学校にいます。児童が670人、先生が30人、40人かな、約700人、釧路でいえば大規模校なんですけれども、去年までは全校生徒15人の極小規模校にいました。およそ23年間、へき地複式教育の方に携わっています。今大きな学校にいと改めて、へき地小規模複式の良さっていうのをすごく感じますし、また、小さい学校にいと、大きな学校の良さっていうのもまた見えてくるのかなと思います。

一昨年このフォーラムで色々お話をさせていただいたんですけど、その中で学生の感想にこんな感想がありました。

複式授業は2学年分を1時間で行うので、児童の学びが半分になると感じていましたと。先ほど副学

長の話もあったんですけども、ちょっとマイナスのイメージをすごく持っていたと。それからこんなに少ない人数で何が出来るんだろうと。この感想ってへき地複式に携わっていると、そんな感覚は持たないんですけども、ベテランの先生でも、大規模校にずっといる先生なんか本当にこういう感想を持つんですね、学生だけじゃなくて。ではじゃあ今日の授業はどうだったでしょうか？学びが半分だったのか、それこそ、あんなだけ少ない人数で、学びが深まらなかったのかって言うと、きっと、いやそうじゃなかったなっていう感想、皆さん持たれたんじゃないでしょうか。これがへき地複式の授業なんですね。

一人ひとりの子どもの姿が載る指導案

これからちょっと何点かのお話、視点を持ちながらお話させて頂きたいと思います。児童の実態、個々に応じた指導、小規模校の積極面を生かすにはどうしたらいいかっていうのが、一昨年の課題でした。今日の指導案、この指導案も普通に見ればへき地複式の携わった先生に言ってみると、「わたり」や「ずらし」やいろんな書き方があるということになります。ただ普通の単式校の指導案で見ると全然違うんですね。例えば算数科学習指導の4ページの単元別の実態、これ子どもの一人ひとりの実態が指導案に載るんですね。それから5ページになるんでしょうか。児童の状況と授業で期待する子どもの姿、これも指導案に載ります。一人ひとりの子どもに、この授業としてこの目標を達成するためにこんなふうに指導していきたいと、こんなふうになってもらいたいということが指導案にそのまま載ります。これが子どもの手立て、一人ひとりに応じた手立ては明らかにした授業の構想ってことになります。これがなかなか大人数だと一人ひとり書くなんてほとんど難しい。グループ分けだったり、全体の傾向だったり、を捕まえながら授業を構想していくんですけども、今日の中川先生を含めて、しゅっちゅう子ども一人ひとりを思い浮かべながら目標を達成するために、どういう手立てを取るのかってというのがこの指導案の中で、明らかになっていきます。これはへき地複式の中の少人数を積極面に生かすということなんだろうというふうに思います。

授業を成立させる学習ルール

それから僕が今日一番大切にしたいのは、学習ルールってことでした。授業の中で今日学習ルールをこういうふうにするよってという話があった

と思います。後でちょっと感想でも聞きたかったんですけども、特に2年生に間接に入る前に、沢山の指示があったと思います、中川先生から。あれ、覚えられたでしょうか？大丈夫かな？緊張したんじゃないですか？こんなに一杯指示出されて、ですよ。でも実際はあんなに指示出さないです。何故かっていうと、もうずっと定着してるから。今回初めて授業を受けられたので中川先生がこうやってやるんだよ、こうやってやるんだよ、こうやってやるんだよって丁寧にしましたけど、中川先生の授業1回ビデオで見てるんですけども、ほとんどそういう指示はありません。子どもたちが自動的にやっていくんですね。これはもう先ほど言いましたように、学び方を学んでくってことを習得している子どもたちなので、そういうことをしなくても、どんどん自分たちで進んでいく。逆に言えばそのルールがないと、今みたく大学生の先生たちでもなかなか理解するのは難しいですよ。それが今2年生ではきちんと定着している。間接指導の授業を受ける場合に、あの学習ルールがないと授業は成立しないですね。ですから、これは一斉授業でも単式の授業でもそんなんですけど、学習ルールをきちんとするっていう、それ以上に複式の場合は、授業コントロールが出来ない間接指導の時には必ず学習ルールっていうのは必要なんだということが、今日の授業でもすごく分かったのかなあというふうに思います。特に学生さんの本当にいっぱい、5つか6つくらい言われましたよね。これやって、後これやって、これやって。でも実際の授業ではそういうことはないです。それはもうずっと積み重なっていくということ。

それから学習リーダーの役割っていうこと、これもはっきりしてました。リーダーがいて、その指示に従って進んで行く。

学習リーダーの役割と学習の進め方

それから今日の中では学習の進め方。ガイド学習ってあったと思うんですけども、あれを見ながら進めていったりします。授業コントロールが出来ないっていうことは間接に入っていますから、なかなか向こうの方に行けないんですね。その時どうするかっていう手立てをしっかりとしていくと。それが先ほど言った2分の1の学習じゃなくて、きちっと今日の目標に向かって1時間しっかり勉強出来るっていう、そういう要素なのかなっていうふうに思います。

早く学習課題が終わったらどうするか

今日の中で特にあったのは、早く終わった時どうするのか。これも一昨年の中で出ていました。早く終わった時の手立て、意外となかなか伝わらないで遊んでる姿だとか、どうしたらいいか分かんないで戸惑ってる姿なんかよく授業で見られるんですけど、あそこもきちんとした説明がありました。早く終わった時はこうすんだよ、ということがあった授業だったと思います。

このように、複式の中で授業がきちんと目標に向かっていったというのは、間接指導、それから学習ルールがきちんとしていた。今回はなかったので事前に先生の方で説明あったっていうことが、授業がきちんと成立して目標に向かっていった要因なのかなっていうふうに思います。

両間接指導（同時間接指導）

それから、学生さんはなかなか渡りずらしを見る機会がないですけど、その渡りのところに先生がどのように動くのかっていうのが記されていると思います。大きくこう渡ってるんですけども、行ったり来たりするんですね。先ほど中川先生もおっしゃってました両間接とか同時間接とかっていうことですが、すぐに渡って次の所に行く、次の所に行くっていう渡り方はあまりしないです。飛行機でいえば離陸するのを見届けて次の所に渡っていく、そして今度は着陸したのを見てすぐ行くんじゃないかと、子どもがどういう学びをしたのかを辿りながら辿りながら、子どもと同じ学びの土俵が上がって入っていくっていう、そういう授業の渡り方の一つとしてその両間接または同時間接が設定されます。よく指導案の中をみるとジグザグに入っていて、もう先生が休む暇ないっていうのがあるんですけど、そうじゃなくて、少し子どもがどういう学びをしてるのかなって見る時間っていうのがきちんとある指導案上の設定が大切なんだろうと思います。これがないと一つづつとそこにずっといなきゃならないこともありますね。全部がずれてくんですね。ダァーッと本当はこっちに渡らなきゃならないのに、子どもがそこでつまづいていたり、そこに時間がかかってしまったりすると全部がずれてきて、それがずれないように、そこにゆとりの時間を持つということも非常に大切なのかなと思います。

教材教具の開発と蓄積

あとですね、教材教具のことについても若干ありましたけれども、皆さんここにある教材教具って、



写真12 10までの数を分解・合成を学習するたし算教具

こんなに用意しなきゃなんないのかって思われたか
と思います。これなんかやっぱりすごく考えられて
いて、本箱をただ縦にただけかなと思うんですけ
ど、違うんですね。ちゃんと5に分けてる。それか
ら淳君役の生徒が行く時に、5に必ずするんだよっ
てことを徹底されるための教具なんです(写真12)。
これらも含めて、これだけ一回一回用意しなきゃ
なんないかっていうと、そんなことはないです。毎回
少しずつ自分の財産として作っていくんですね。
ワークシートもそうです。一回一回ワークシートを
作るんですけど、その度に新しいのを開発する
んじゃなくて、去年使った物をまた作り直して、子
どもの実態に合わせて作り直していくだとかしなが
ら、少しずつ財産を蓄えていくことが必要になって
いきます。今日なんかは(プリントを)軽く渡しま
したけど、大きな学級、40人学級では一人ひとりに
プリント渡すだけで5分10分かかりますから、なか
なか授業ではやりにくいんですね。そういうよさを生
かしながら授業を工夫してくということが大切だ
と思いました。何よりも後半、1年生2年生役の学生
さんが中川先生とのやり取りで、本当に自分が1年
生2年生になっていきますね、あのやり取り見てく
と。ああいうふうに対面で話出来て、何つまづい
ているのかを見てもらいながら、授業を進めていく
のがやっぱり大きな大きな魅力だと思います。へき
地複式小規模校って、あとからまたお話しますけれ
ども、そんなに学びが浅いんだとか、深く学べない
んだということじゃなくて、今日の授業のような形
をどんどん積み重ねてくと、本当に豊かな学習が出
来ると思いました。どうもお疲れ様でした。以上です。

学び方の習得の重要さ

渥美 今、滝川先生のお話にもあったけれど、学び方が
徐々に身についている。授業は未修のものを既修に

変えていくっていう働きが一つあります。その中で
どうしても私たちは授業を作ると、知識、技能、そ
ういうもので出来た出来ないってことで授業作りを
しがちなんだけど、その子どもが成長していく
過程の中で、学び方が身についたっていうのは非常
に重要だな、今日の授業を見て、それを勉強しまし
たね。かなりさりげなく、いつの間にか出来ちゃっ
てる。これはなかなか難しいです。

今日の授業の中で、学生さんたちが行った学習活
動の種類多かったですよね。あれもやってこれも
やって、それを2学年がやっている。そういうふう
にたくさん子どもたちに学習活動をさせているにも
関わらず、当の中川先生はゆったり動いている。あ
れはやっぱり先生が、ちゃかちゃか、ちゃかちゃか
動いて、あーでもない、こーでもないとやっちゃう
とね、なかなか穏やかに子どもたちが落ち着いて学
びをしていける、そういう環境作りは出来ない。だ
からただこう見てるだけではね、なかなか中川先生
がどういう意図で子どもたちのことを教育して指導
して授業して育てていったのかって分からない部分
があるので、今後ね、詳しく聞きたいなって思っ
てます。さりげない学び方の身につけさせ方です
ね、そこは何いたいなと思って授業見てました。

子どもたちへの働きかけ一声かけの重要性

柱は3点ありました。1つ目は複式授業の構想、
少人数指導の考え方っていうお話でしたね。例えば
今日の授業の中だったら、「おっ、やってる、やっ
てる」とか、「目と目が合ったね、淳君」とか、「おっ、
もうパズルやってるの」とか。こう渡っていった先
で、声かけをするんですね。ああいう声かけって
いうのは指導案には書かれなくても、重要な子
どもへの働きかけです。あれは個に応じた指導です
ね。よく、個別指導と混同されるけれど、個別指導と
個に応じた指導は違います、違いますね。個別指導
はやっぱり子どもの横について、家庭学習のよう
にやってく指導ですね。個に応じた指導っていう
のは、全体指導をしつつも、そこにいるすべての子
どもたちにとって価値のある心地よい言葉かけであ
ったり、学習活動の保障であったり。ですから授業
の中で必要なのは多分、個別指導よりは個に応じた
指導です。そのバランス、授業作りの上手さを非
常に感じました。

空白の禁止

2つ目ですね、複式授業の指導法。そのことにつ
いては、子どもたちが何をやっていいか分からない、

何を学んでいいかわからない、そういう時間をつくらなくていいことですね。一言で言うと空白の禁止。どうしても間接指導の時に子どもたちが勉強することがなくなって、手持ち無沙汰になってしまって、そういう授業がよくあるんだけど、そこら辺の配慮がすごくされていて。例えばヒントカードがあったり、プリントがあったりしたんだけど、その子どもたちだけで学ぶことの出来る工夫の中に、こういうキーワードがあったと思ったんです。それは「共同」です。一人でやるプリント、一人でやるヒントカードじゃなくて、ヒントカードを皆で見て。すごく微笑ましかったですよね。で、「見る」、「見る」、「見ない?」「どうする?」「見てみよう、ね」。あとプリント、一人ひとりでやったにしても、答え合わせを皆でやる。だから空白の禁止をしてるんだけど、その空白禁止で一人で学ぶのではなくて、皆で学べる時間が十分保障されていて、さっき間接指導で鍛えるっていうお話をされていたけれども、そこで随分子どもたちは伸びて成長してるんじゃないかなと思いました。

教材内容と教具の工夫

3つ目が複式少人数授業における教材内容と教具の工夫。これはもう一目瞭然なんだけど、お団子の色ですね。色画用紙にお団子って作ったんだけどあの色ね、かなりのこだわりですね。1回使った授業の提示物がやや大きくて作り直しをしたんです。この黒板に合うように、ピタッと合うように。だから前作った物をやや小さくしなくちゃいけなくて、お団子を作り直す話になったんですね。大学にあった色画用紙を持って来て、このお団子の色でどうしよう、これで作ろうかって話になりかけたところで、そのお団子は美味しくなさそうだって、中川先生が。つまりお団子の色をこの色にしたいんだっていうこだわりですねよ。

「こだわり」の大切さ—教材解釈と児童理解—

まあ、お団子の色は一つの例なんですけれども、そういうこだわりが授業の中の随所にあった。そのこだわりはどこから出てくるのか、それは2つです。1つは教材の解釈。今日の授業は1年生も2年生も学習内容がびたっと定まっていました。ああ、これを勉強したんだなっていうのがすごくよく分かった。そういうふうに究極までにきちっと教材解釈をしている。もう1つは児童理解です。子どもたちのことをどう分かっているかってことですね。大事なものは児童理解の中で2つ。1つは現状の子どもたち

の児童理解。もう1つはこう育って欲しいなっていう児童理解ですね。今日初めて会った大学生の皆さんが、授業の始めと授業の終わりで、授業を受けている様子が随分変わったように感じました。それは中川先生が学生さんの様子を見られて声掛けをしながら、こんなふうに学生さんに学んでほしいなっていうイメージがはっきりとあるからなんですね。そのイメージに沿って子どもたちが成長していく。だから子どもたちが成長した姿っていうものを教師がどれだけイメージが出来るか、はっきり児童理解が出来ているか、そういう所が大切ではなかったかなって思いました。

先ほど頂いた感想用紙は、なかなか目を通してないんですけども、この中に書かれてる中身で是非皆さんで考えてみたいっていう内容がありますので、いろいろ私も教えて頂きながら勉強したいと思います。私の話は以上です。有り難うございます。

2. フロアとの討論

川前 はい、有り難うございました。それぞれの先生方からコメントいただきました。この交流の柱の1点目、2点目、3点目、それぞれ重なるところも出てくるとは思うんですけども、教材教具の工夫ですか少人数指導の接し方、複式授業をどういうふうに作ったらいいんだろうというようなお話があったかと思います。ここからは休憩時間に皆様から頂いた質問感想用紙も含めて、1番目2番目3番目と柱の順に沿って少し議論を進めていきたいなと思います。約40分ぐらい時間ありますので、どんどん積極的に手を挙げて頂ければと思います。

まず1つ目の柱ですけども、複式授業の構想、少人数指導の考え方についてです。フロアの先生方や学生の皆さんから、このことについて是非聞いてみたいと思う方、ご意見いただける方いらっしゃらないでしょうか。

最初に手は挙げにくいかと思いますので、質問用紙でいただいた根室市の花咲小学校の市川先生の質問からいきなしたいと思います。「少人数指導の際に、こちらが出して欲しい意見や考え方が子どもから出ない場合にどのように対処すればいいんだろうか」という質問がありました。これについてはパネラーの先生方がいかがでしょうか。番号でいうと10番の質問用紙になります。

あと、7番の学生さんからの質問ですが、「少人数指導で可能な児童の積極的な意見交流について。どうすれば少ない人数で沢山の考え方を引き出した

りすることが出来るのだろうか」というものがあります。

鳥取西小学校の畠山先生って呼ぶんでしょうか。質問番号13の「複数クラスをまとめて少人数をやる場合には一斉授業に戻すために進度を合わせなければならぬ。習熟度別にしにくい点があるんですけど、どのように改善すればいいだろうか」という質問です。フロアーから発言いただきたく思います。はい、どうぞ。

意図したことが子どもから出ない、どうしたらよいか

市川 (根室市立花咲小) 現在の勤務校は小規模校ではないのですが、学生時代に一度、小規模校実習に行かせていただいて、その時に複式学級を担当させていただきました。その時から、人数がものすごく少ない中で、こちらが意図したことが子どもたちから出して欲しい考えが出てこないことがあるんじゃないかと思っています。そういう時に、教師側から、こういう考えもあるよねっていうような出し方をそのままするのはどうかと感じていたので、どういうふうに子どもたちから出させるかあるいは出してもらおうか、対処の仕方を教えてもらいたいです。(写真13)



写真13 市川工氏

滝川 きっとこれ、少人数でも大人数でも同じことかな。その質問の仕方によって子どもたちが答えられない場面が、大きな学校でも小人数でもありますよね。そういう時どこに助けられるか、やっぱり発言してくれる子どもたちを様子を見ながら、授業を進めてくってということになると思います。でも今おっしゃっている、少人数の場合なかなかそういうことはね。それこそ3人、4人しかいない時に全然発言が出来ない。それはそもそも、その発問の問い掛け自体に問題がある。それは大きな学校でも同じだと

思うんですけど、その発問がその子に合った、今までの学びの背景の延長上にある発問なのか、全くほとんど違うものなのかっていうことで変わってくると思います。大体混乱するのは、延長上にあっていきなり変わる、または意図的なものが強すぎて子どもが対応出来ないっていう、そういう事態は沢山あります、僕の経験では。

子どもの意見は半分教師の意見

渥美 やはり私も同じような経験はしてまして、クラスに1人しか男の子がいなくて、そういう環境で授業させてもらった時もあったんですね。今、滝川先生がおっしゃった様に、発問の問題、教材提起の問題も勿論あって、そこはジャンジャン工夫して、少しずつ改善されていったらいい。もう一つ私が悪かったなあって思うのは、子どもの話を聞く時の教師の心持ちです。質問にあるように、何か教師がこう言って欲しいなあっていうのがある場合は、ちょっと駄目でした。子どもっていうのは教師の意図を読むので、あー先生こういうふうに言って欲しいんだろうなって考えてる。それがあるうちは、子どもの意見は半分教師の意見なんです。あー先生これ言ったら喜ぶだろうなあ、先生はこういうふうに言って欲しいんだっていうのを子どもが敏感に感じ取って、それについて喋ろうとするから、それに合わない子たちは発言ができない。そうではなくて、1回発問もして自分の答えて欲しいこともきちんと持つんだけど、1回子どもの話を聞く前に自分の心持ちを無にする。この子何て言いたいんだろう、この子の言いたいことは何なんだろう、それをしっかり聞く耳を持つ。傾聴ですね。そういうのを少しだけ出来るようになって、そうすると子どもの発言の内容、種類が広がってきてるなって思っています。でも、どうしても、ここ言って欲しいんだよなってことを思っちゃうのが教師なので、その壁をどうやって崩すのが凄く難しい問題だなって思っています。

前もって考える、あるいは言ってしまう

中川 今、2人の先生、滝川先生と渥美先生が言ったこと、まず同じなんです。それから今日の授業の中では、ここが出ないとちょっと先に進まないぞっていう所が一箇所あるんですよ。それは、1年生の課題が「他の計算の仕方を考えよう」ですが、指導案に「昨日の問題と比べて、加数が大きいことに注目させたい」となっています。昨日と勉強の違いをあそこで気づかなかつたら、課題の設定が出来ないわ



写真14 発言する3人のパネラー

けですよ。だからここはどうするかって、事前にやっぱり出なかった場合は、どういう裏の手を考えておこうかっていうのは常々考えていますね。物を見せるだとか、前の時間に使った物をもう1回出してみるとか、まあいろいろですね。子どもが前呟いていた、「誰々ちゃんそういえばあん時、そういえばこんなこと言ってったしよって。あれちょっと何て言ってたか皆に聞かせてごらん」とかっていう、前に子どもが呟いてたことをちょっと覚えておいて、それを使ってみようとか、幾つか方法、手立ては考えて用意しておくっていうと、意外と何とかなる。あれこれ、あれこれ考えて、子どもから出ない出ない出ないって、ずっとあせっていたという経験もいっぱいあります。そこにこだわって先に大事な所に進めないと困るので、そういう時は、あっさり言っちゃった方がいい場合だってありますよね。誰々ちゃんどう？あそこ、こうだったよね、ああだったよねって言っても全然反応無い時は、もうスパッと言っちゃった方が。僕はよく、先生の言ったことよく分かんないでごめんね、先生の言いたいことこういうことだからって言っちゃうこと結構あります。以上です。(写真14)

児童の積極的な意見交換はどうすればよいか

川前 萬君いますか？はい、質問のところで少人数指導で可能な児童の積極的な意見交流についてというのが質問としてあるんですけど、もう少し膨らませてというか、自分の思いから質問してもらえますか。

萬 北海道教育大学二年目の萬拓馬と申します。僕は小さい時からへき地教育を受けてきて、高校時代約40人位の規模を経験しました。今、子どもの発言で進める授業みたいなものを自分でもやってみたいなと思っています。それで、へき地小規模校はやっぱり子どもの人数が少ないので、子どもの発言が少ないと考えています。子どもの発言が少ないと考



写真15 萬拓馬君

方も少ないのではないかと思いますし、様々な視点から一つの物事を考え、その一つのことがより深くなっていくという授業がなかなか難しいのではないかと考えています。そういう時に、教師が児童役になって、「こういう考えもあるんじゃない」というふうにしていくことは可能かなと思うんですけど、やっぱりそういうのは児童が感じ取ってしまっただけで、こういう答えを予想してしまい、あまり児童どうして学びを深めていくのは難しいんじゃないかと思ひ、今回質問をさせていただきました。(写真15)

川前 現在複式学級を担任されてる中川先生どうでしょうか。

中川 難しいですよ。正直難しいです。ここまだ3人いるから、3つ答え、最大で3つですよ。2人学級、1人学級になったら、ますます混乱してしまいますよね。少なくても、上手く練り合いにならないですよ。

時々子どもに聞くのは、1人の子どももいろんな考え、こういうふうにも考えられる、こういうふうにも考えられる、こういうふうにも。それで、自分はこの中でこれが一番いいと思うっていう話はある程度大きくなってからですよ、っていうふう

えさせるってことはやりましたね。それから今はよく、謎のマラソン男とかいろんなものが登場してきます。謎の自転車男っていうのも他のキャラクターでいるんだけど、いろんなキャラクターがいろんな考え方をぶつけてくるみたいな、挑戦状送ってくるみたいな、そんなふうにしてちょっと遊びながらやったりもしてますけども、なかなかその辺は難しい問題だと思いますね。もしこのフロアの中で、いい実践を持たれてるよって方いたら是非聞きたいです。

滝川 授業を作るところの本質の部分だと思います、複式のね。多様な意見が出ない、出づらい環境っていうところは、本当にこれは携わっているうちに必ずぶつかる所です。やっぱりね、授業の枠の中だけで考えると、そこは難しいです。先生がとか、2人いれば結構出来るんですね。ただその中で何を学びの膨らみにするかっていうと、例えば2人いればもう1人、2人以上いればやっぱりそういうのは出来るよねっていうのは、一昨年のフォーラムの中で出てたんですね。2、3人じゃ少ないんだ、2、3人もいるじゃないかって発想で授業作っていきこうということが必要なんだって、そこを引き出す。でも、1人の場合はもう本当に発言のしようがない。よく喋るんですけど、それはまた、発言とちょっと違うんですね。授業の中で例えば今言われた先生が、または教科書の中でもいろんな考え方がある、今教科書に凄く載ってるんですね。こんな考え方もあるね、自分はこれを選ぶってことをやっていきます。それが授業の作り方。でも、やっぱり人数が少ないっていうのは最大のデメリットですから、小規模校の場合は。だから今、いろんなところで集合学習をやったり交流学习をやったり。6年間子どもたちが例えば1人または2人しかいない教室の中でずっと学びを続けていったら、本当のどんな子どもに育つのかっていくと、ちょっとマイナスのイメージが膨らんでいきますよね。そういうところからいろんな学校と交流しましょうと。

時数については、都市部に比べてかなり多く設定されます。比較的余裕あるんですね。何で余裕あるかっていうと、いろいろあります。例えば家庭訪問の数なんか1日で終わってしまいますから、大規模校なんかはそれこそ1ヶ月近くかけて家庭訪問をして、その間時数をカットしてくんですね。それがどんどんどんどん積み重なっていくと、かなり時数が。その時数を使いながら、例えば集合学習に行く、保育園の子どもと交流をする、地域にいるおじいちゃ

んとおばあちゃんと交流する。だから同年代との学びっていうか会話っていうのは、そんなにやっぱり上手じゃないです。2人しかいないと2人の生活の中で育っていきますから。でも縦の系列の学びは物凄くあります。だからよく小規模校の子は面倒見がよい。それはもう、そうならざるを得ないんですね。下の子をしっかりと見る。そして下に伝えていく。上から学んで下に伝えていくってことがしっかりと出来る。これはもう小規模校最大のメリットです。そんなふうにしながら世の中見ていったら、皆さんもそうだと思いますけど、同級生もそうだと思いますけど、縦社会ですよ。いろんな上の人から学んでいく、下の人に伝えていく、それがもうへき地の中では、もう小学校の段階からしていきます。だから下に伝えるにはどうしたらいいか、上から学んでいくのはどうしたらいいのかを授業以外のところで学んでいく。授業も国語算数以外は結構一緒にやったりする学校も多いですし、体育なんかはまさしく皆でやったりしますので、そういうところで学びを広げていきます。今授業の中で言う本当に少ないっていうのは本当にその通りなんですけど、もう一つ大きく見た場合にはいろんな学び、上からの学び、下からの学びっていうのは出来る環境にあると、そういうふうには押さえて授業をやっています。

川前 有り難うございます。もう一つどなたかいらっしゃいますか？はい、どうぞ。

学年を関連づける

畠山 釧路市立鳥取西小学校の畠山です。よろしくお願ひ致します。あえて複式の経験がないので教えていただきたいと思い、質問させていただきます。

年間の単元の計画があって、本時のこの授業が1年生2年生の関連がなかったようなんですが、それをあえて関連づけた方が非常に効率がいいぞとか、やりやすかったぞとか。算数だけではなくて、国語の作文であるとか色々その例がありましたら、お教えいただければと思います。(写真16)



写真16 畠山泰将氏

渥美 今おっしゃられた様な工夫は、本当に重要ですね。時数的には余裕があるんだけど、要は半分の時間先生と直接勉強してないってことです。だからそこで上手く工夫が出来ると、小規模校のよさが二重にも三重にもなるなっていうのはあります。

例えば国語の授業だったら単元を入れ替えて授業します。そうすると先生の時間が作りやすくなる。書き上がった作文を今度は話す聞くの単元とぶつけて、高学年が書いた作文を低学年が聞いて、それを元にして何が聞けたか質問をする。そういうふうに、領域別に上手く組み合わせると、効率化が図れるようなことは工夫として可能です。但し、年間指導計画でそれやるっていうのはかなり難しいです。と申しますのは、小規模校になってくると、飛び学年って出てくるんですよ。だから1・3の複式とか4・6の複式とか、常に1・2、3・4、5・6って順番にやればそういう年間指導計画を作ることもかなりの確率で出来るんだけど、それが毎年保証されているのではなくて、今年は2・3で組むよとか、来年は4・6で組まなきゃなんない、そういう時になると、本当に前もってそういうふうな単元の組み合わせで指導計画を作っておくことはかなり難しいです。現実は今、先生がおっしゃられたようにその場その場で臨機応変に学級担任が教科だとか単元だとか領域だとか、そういうものを組み合わせて効果的に授業を作っていくことはしています。

複式授業の指導法

川前 有り難うございます。次の交流の柱の方に移りたいと思います。2番目が複式授業の指導法について、質問用紙の方から少し入っていきたく思うんですが、パネラーの先生の手元にある7枚目と5枚目と6枚目、ちょっと見て下さい。「ガイド学習は生徒の負担になりすぎないだろうか」「学習ルールの定着はどのように図っているでしょうか」「本時の学習のポイントは最も配慮、工夫した点はどういったことでしょうか」「渡り際のタイミングはどう考えるか」についてです。この辺から入っていきたく思うんですが、よろしいでしょうか？まず中川先生、お願いします。

ガイド学習は大好き

中川 あんまり考えていなかった質問なんですけれども、まず7番「ガイド学習は生徒の負担になりすぎないか」っていうことなんですけど、実はすごい大好きなんです。自分がリーダーになって先生の代わりになって勉強するの、すごい好きなんです、子

どもたちね。だから今日はジャンケンでガイド決めたんですけども、順番にやらないと気済まないからいつも交代です、毎時間毎時間。今日私やる、今日私やるっていうこと。2年生は3人ですごい仲いいもんですから、だからガイドさんが困ったら助けてあげるんだよってというのがルール、自然のルールになってるから、ガイドが詰まって上手く進められなくなったら、こうしたらいいんじゃないとかあしたらしいんじゃないとかいってお互い言い合いながら、キャッキョッ言いながらやっています。この授業やった時も、2年生、あっちこっちウロウロ立って歩きながら、糊つける紙は？机に糊ついたら困るからって、普段新聞敷いたり何だりしてやってるもんですから、それ思い出して急に立ち上がって、ダーッと教室の隅っこ行って紙引張るんですけど、僕はびっくりしますね、それ見たらね。あれ何始めたんだらうって思ったら、糊つける紙を取りに行ったという話をしてて、いやーそれじゃあどうぞどうぞって、それもまあ3人で相談しながら。

ガイドが中心になってやるんですけども、3人仲よくやってるんで、特に子どもたちは負担になってるっていうふうには感じてないんじゃないかと思えます。むしろ楽しんでやっています。ガイドで一生懸命頑張ってる姿をあとで見て、すごくよく頑張ったね、もう今日のガイドさんは素晴らしいって話をすると喜んで、また次もやりたいやりたいって言うんで、それを上手く利用してっていうのは変ですけども、それが次の育ちに学びに繋がっていくんだっていうことで、本当にガイド学習っていうか間接学習で鍛えるっていうところを大事にしたいと思ってるやっています。

学習ルールの定着

5番目「学習ルールはどのように定着図っていますか」ということですが、本当に1年生が入学した時は何も出来ないですよ。むしろ、ただ座ってるんだけどもゆるくないって状況からスタートするんですが、ある時期が来ると、座って話を聞ける時期がやって来ますよね。その時ぐらいから間接の時はワークシート的なものを渡して、これやるんだよって言ってやって、自分たちだけで1人で黙々とやって、終わったら好きな絵描いていいよとか、色塗りをしてみてもいいというような話をしています。それが段々出来るようになってくると、上の学年の子がどんどん自分たちで勉強進めてますから、「それ見てやってみるかい」なんて言うのと、もう乗ってきますよね。そしたら「2年生やってるように、

じゃあやってみるか」「最初だから先生ちょっと見てあげるからね」なんて言って、そうやってやってくるうちに、だんだん1年生も答え合わせが出来るようになっていきます。「今度じゃあガイドさん、リーダーさん中心に話し合い出来るかい？」って言ったら、「出来る出来る」って必ず言うから、「じゃあこんなふうにするんだよ」とか「答える方もこんなふうにするんだよ」というふうにあります。国語の学習としてリンクしながら話し方、聞き方、話し合いの仕方みたいなのを、国語の勉強の中で簡単な事柄が出てくるので、その勉強も合わせて使いながら、少しずつ出来るようにしていきます。それは本当に上位学年がいいお手本になってくれる。だから複式教室って本当にこれメリットだと僕は思います。上の子どもが教えて、自然に教えてくれるってことがあります。授業中も2年生が1年生にちょっと教えに行きあげることあります。だから結構普通の授業の中では、1年生と2年生が混ざり合いながら勉強するなんていうこともあります。そんなふうにして学習ルールが定着してっていきます。

ガイド学習も今日もプリントに沿ってやったんですけども、いろんな方法があって、よくパワーポイントなんか使ったり、ウェブ使ったり、自分で作ったりすると、自分たちの考え方によってクリックするところが違えば違う画面に飛んでいくみたいな。複数の選択肢で複式間接授業が流れてくみたいな。こういうのを一回作っておくと、また次の年もちょっと直せば使えるので、そんなことをしても喜びますし。そんなような方法を使いながらガイド学習も楽しくしているんじゃないかなっていうふうに思います。

学習のポイント、工夫したこと

それから6番目ですが、「本時の学習のポイント、最も配慮し工夫した点」ですね。1年生はとにかく大変なんです。個人情報なんてあんまり詳しく言えないんですけども。やっぱり時間をたっぷりかけて、ゆったりと勉強してあげる必要がある子たちが多くいるので、やっぱりスモールステップでということが一番考えています。日頃。スモールステップなだけけれども、踏み外すこともあるのでその時は2、3段階段下に下がってからもう1回やるっていうような、そういうことを考えていたので、今日も本時の課題設定までの時間が随分長いですね。普通の授業だったら、特に単式の授業何かだったら、最初の導入の部分に15分20分かけてしまったら後が詰

まっちゃいますよね。でも前時のことを大事にしながら、ちょっとずつ進んでくってことを心掛けていきます。

2年生は本当に全く新しい概念の、掛け算知ってるんです。去年も今の3年生が同じじゃないですけど似た授業で団子で、自分たちも団子を食べさせてもらったっていうの分かっているもんだから、今日は団子の数当てるんだって、朝から団子団子団子団子言って、もう騒いでいるんです。だから実際にはさっき滝川先生が言ったように、あんまり丁寧でなくても、もうやること分かっているし、もう全部当てるんだ、とにかく当てて自分は団子食べるんだっていうそういう意欲があったので。でもその中でやっぱり1本に何個刺さってるかっていうのが分かんないと、全部の数が分からないんだってということがちゃんと分からないと、ただ団子当てる競争になってしまっていて終わってしまうんで、そこら辺は一番大事にしたいと思ったところです。

学習ルールの研究課題

滝川 学習ルールの部分なんですけれども、今日先ほども言いました、ここにちょっとこだわりながら見ました。質問の中で、「学習ルール、特に答え合わせを自分たちで進めることについてどのように定着を図ってますか？」っていう質問があるんですけども、今日の1年生の答え合わせは、すごくスムーズにやっていますよね。あれは中川先生に言われてこうやって下さいっていう、その発表の仕方や答えの合わせ方っていうのをきちんと、見る方にとっては形式的になって見えるんだけど、あれで1年生っていうのは絶対にいいんだと思います。ああいう形式的なところから入って、それから少しずつ自分の学び方が分かってくると、どういうふうに答え合わせしていけばいいのかわかっていうのをどんどん、どんどん広がっていきますし、学び方が分かってくる。

この学習ルールって、これから研究していく中では、僕は一つ大きな研究課題になると思っています。なかなかそこに手をつけるってことはないんですけど、何となく手を挙げるとか発表の仕方、そういうことではなくて、例えば、1人对1人の複式の授業の時の学習ルール、1人对多の場合、多対多の場合の学習ルール、それから1年生2年生、それから5、6年生の学習ルールって絶対違うんですね。そのルールっていろいろあるんですけど、その子に合った学習ルールを作っていく、この教科に合った学習ルールを作っていくと考えると、もの凄く沢山のものが必要になってきます。この1本でってこと

は多分ないと思います。でも1つひとつ組み合わせていながら、その学級に合ったものを作っていくことが必要だと思います。ただその中で、僕の中のこれは課題だなんて思うのは、その先生が今中川学級が1, 2年生, 次3, 4年生でルールが変わると、今まで積み重なってきたものが全部崩れていくんですね。だからきちとした学習ルールを系統的に作っていく。例えば、こういう大学の研究機関や学生の皆さんがこれを行って、1年から6年までどういう学びをして、どういう学び方をしていけばこういうふうに通っていくんだっていう像を思い描きながら学習ルールを作っていくと、これはすごくいい、子どもの力をつける本当のベース、基礎になるのかなと思います。

今日の中川先生の授業を見て、最初の10分間いろいろ話された、あそこの部分もすごく大切です、そこがある程度追ってきてくると、極端な話、半分は授業はある程度ベースに乗っていくと。その上に立って今度、教科の目標だとかそういうねらいついてのをきちと詰めていければいいのかなと思います。例えば、複式の授業の約束で、渡っている時には絶対先生に声を掛けない。でも、躓まづいた時、タイミングを見計らって、「先生これどうなんですか」って高学年くらいになるとやるんですね。そういう学びが必要なんです。ルールはルールだからこれ絶対に駄目っていうのではなくて、今この目標を達成するためには、ここで聞かなきゃということであれば、先生の方にちょっと聞いてみるだとか、そういうルールっていうのをやっぱり必要だと思うし、そんなことをやってくと物凄く複雑にからまるぐらい、沢山研究する余地があるなど今日見てて思いました。以上です。

学習リーダーを育てる

川前 3点目のところに「学習リーダーの役割」っていうのがあるんですけど、先ほど中川先生の方から既に言葉が出たのですが、「学習リーダーは固定なんでしょうか」という質問もあります。授業の中で学生からよく聞かれるところですけど、その解決、いろんなことでリーダー的にやっていける子は、何をやってもやっていけるようになってしまったり、そのそうじゃない子どもに任せるとなかなか進まないとか、そのへんで現場の先生はどうやってるんだろうとよく学生から聞かれます。先生方のご経験で何かあればお話いただけますか。

中川 担任の先生にもよると思うんですけども、教科

ごとに算数のリーダーは誰々とか、国語のリーダーは誰々って決めてる学級もありますね。それから本当に毎時間交代でやるっていう学級も聞いたことがあります。ていうか僕がそうしています。子どもたちはやりたがるんですけども、こっちの意図としてもリーダーの学びっていうのは凄くあるんで、リーダーがいろいろ分からないと進まないこともあるし。だから敢えて皆にやらせることによって、もしリーダーが詰まっても回りの子がフォローするから、リーダーをやることによってついてくる力というものがあるんで、全員にやらせたいっていうことがあったので、毎時間交代でずっとやってきてます。そんなふう子どもたちも思ってるから、今日は誰々って自分たちでも分かっているみたいで、リーダーさんよろしくねって声を掛けると、決まっているからその子がパッパッと進めてくみたいな感じではいます。

川前 残り時間が少なくなってきましたけれど、是非フロアの先生方からも2点目と3点目が重複するところもかなり出てくると思うんですが、板書計画のことですとかワークシートの活用ですとか、今日移動黒板使っていただいているんですけども、座席の配置の工夫ですとか、何か先生方実践している中でご質問いただければと思いますが、いかがでしょうか。勿論、学生さんからでもいいです。

複式授業指導案、どうつくるか

幸村 旭川校のスーパーバイザーやっております幸村と申します。学生の直接指導してるんですが、へき地校の実習に行った時に、指導案作成の難しさっていうのが必ず話題に出るんです。先生方のご経験から、今日の例えば、1年生2年生のそれぞれねらいとか到達させたい目標があって、大体1時間の1年生ならこういう課題からここで収束をする、まとめをこんな感じにする。それをそれぞれ学年に応じてつくる。実際に授業を作る時に、両方のその先の内容が分かっているから、イメージはここでこうなって、次に2年生に移ってとか、そういうイメージを先に作ってから指導案作りに入るのか、それとも、いわゆる「ずらし」といわれるのがありますので、こっち作ってからこっち作ってという考え方になってるのか。最初から1時間のイメージを作って指導案を実際に作られているのかということ。その辺のことをどのようにお考えになっているのか、お教えいただきたいです。(写真17)



写真17 幸村敏晴氏

中川 きっと先生方それぞれに、皆違うんじゃないかなと思うんですね。私自身も聞いたことがないので、どんなふうにして授業作るのっていう話は聞いたことないで、ちょっと一般的な話にならないと思うんです。私の場合は、今日はこの勉強だと思うと、あんまり複式のこと考えなくてそれぞれの1年生は1年生の授業、2年生は2年生の授業で、こんなふうスタートしてこんなふう終わるよっていうイメージをやっぱり最初に持ちますね。やっぱり子どもなんですけども、1年生はこういう子どもだからこういう授業組んでやりたいなって思うし、2年生はこういう子どもたちだからこういう授業組んでやりたいなと思いますので、そこが最初にまず出来ますよね。いろんな教材持ってくるとか。その後でそれやるんだったら、活動をこれぐらいの時間ずつかかるかなあ、なんていうふうにやって、合わせてみた時に、どうしてもここだと噛み合わないっていうの出て来ますので、そこはどんなふうにするかなっていうのは、今度パズル操作みたいなことになってくる時もありますね。

そして結構あるのが実際に単元を流してみると、その本時に辿り着くまでの間に、いやこの時間配分だったら多分噛み合わないのが見えてくる場合もあるので、そういう時は差し替えてしまうこともありますし。だからやっぱり最初に出てくるのはイメージです、私は。

滝川 本当に指導案上はパズルなんですね。僕は、授業研だとかそれからいろんな見せる場面だとか、普通の授業でもそうなんですけども、はっきり言って、どっちの学年を中心に置くかだけです。だから、例えば1年生の今日は学びの中でどちらを上置くか。5対5ってほとんど僕の経験ではないです。例えば6対4だったり、時は8対2だったり、10対0っ

て時もあるんですね。そうするとこっちはプリントやっておいて、こっちでもうそれこそ、今日の割り算の1番の最初の仕組みを教える時なんかは10対0です。だから一番最初に主になる学年を置いて、そのところに4のところをどう効果的に、時間的なものは6対4でも中身的には5対5になるような形っていうふうを考えます。まず1本は作って、その後横の方に一つの学年を作っていくって、目標に達成出来るか。だから若干4のところについたら、もしかしたら目標は1つ下がるかもしれません。でもそういうふうに作っていかないと、いつも5対5っていうのは自分の経験であんまりないですね。むしろ偏ってる方でやりながらトータルの1年間を通してみると、きちんと時数のところで押さえてる、そういう作り方をしています。

渥美 つけ加えると前後の勉強との繋がりでですね。指導案書く時っていうのは、全時間書いてるわけじゃないから、この時間っていうふう考えて書くから、こっちから始めてこっちに「ずれて」ということを考えるけれど、子どもたちは毎時間学んでいて、昨日の国語の続き、今日の国語の続きが明日っていうふう考えているから、前後の授業との繋がり方も授業作りではすごく重要ですね。前の時間こういうふう終わったからじゃあここから始めようって、お互いの確認になるわけだから、お互いの確認あるところで、私はどっちにつこうってことを考えてくことを、日常やっていました。

川前 フロアーの先生方ないでしょうか。はい、玉井先生お願いします。

個に応じた指導、大規模校で応用できるか

玉井 直接、今日の複式の授業に関係ないんですけども、今回学習指導要領が変わってですね、言語表現の重視ということで、討論だとか振り返りだとかまとめだとか。私は複式の授業で、今日見せていただいた授業が学習のルールだとか個別指導するか等の間接指導も含めて、これが恐らく大人数でもかなり役立つものがやっぱり入っているだろうと思うんです。ただ現実そういう人数の多いところで、そういったことっていうのは、恐らくかなり難しい問題が入ってくるだろうと思うんですけど、既にお二人の先生、大規模校に移られてそういう経験をですね、大規模校にも生かせる条件があるんだろうかと。これはですね、やっぱり市街地の大規模校に行くと、個別に個に応じた指導をしようと思ったら、それは



写真18 玉井康之氏

へき地だから、少人数だから出来るんだよ、みたいなやっぱり意識は大規模校の先生にはある。だから、そのところの変換を応用出来るかどうか例によってお聞かせいただきたいと思います。(写真18)

川前 渥美先生と滝川先生、お願い出来るでしょうか。

渥美 これはかなり出来ますね。これははっきりと出来ます。授業作りに重要な子どもを見る目とか児童理解でさっきお話しましたが、要は児童理解するのも最終的には量の問題ではなくて、質の問題なんだろうと思います。だから、人数が少ないからはっきり見えるか、人数が多いから見えないかっていう単純な問題ではない。私は複式授業、複式校と小規模校での経験が一番学んだのはそこですね。だから例えば通知票を書くのに何て書こうって、30人学級で凄く困っていた自分があるんですよ、7、8年前。小規模校に行くと2人、3人の通知票書くのって、これ困らないです。あっという間に出来ちゃいます。だけど一方で、その平面的な見方を反省するんですよ。人数が少ないからもう見えてると思ってるけど、実は見えてない部分が分かってきて、その子に対する理解が深まってくるっていう経験をしました。大規模校にくると、今はちょうど30人1年生がいるんだけど、所見書くのに困らないです。全く資料なしで所見を書けます。困るのは、書きたいことが多くて困る。かつては書きたいことがなくて困る。結局は子どもを見る目っていうのは量の問題ではなくて質の問題なんだなって、それに気づかせてくれたのは小規模校での経験でした。そういう意味で凄く可能性があると思います。

滝川 23年度から小学校の新学習指導要領で進めていきます。その中で大きく変わったのが、今玉井先生が

話された評価の部分が大きく変わりました。思考判断表現とそこが求められるようになってきます。特に表現あたりはどうとらえるか。例えば学芸会で行けば、学芸会の発表していることを評価するんじゃないかって、あそこで大きな声で発表してるってことを評価するんじゃないかって、その題材を選んでどうやって練習をして、どうやって表現をしたのか、そこが求められる。今度評価が大きく変わるんですね。今までどちらかというと、発表したものを発表はどうだったのかっていう表現(の評価)だったんですが、そうじゃなくて、どうやって考えて、その主人公の役をどう捉えて、どうやって発表するのか、そこまで求められる評価に変わっていきます。これは、今まで私たちがやってきた評価とは大きく違うんですね。

そういうことは、例えば今日の1年生の話だと、答え合わせなんかはこうやって喋ってましたよね。それからどうやってこのさくらんぼの考え方をやるって自分で考えたことを言葉にしますね。これが今これから求められる学力観です。こういう一人ひとりが皆が互いに説明しあいながら自分の考えをまとめて、そして判断して表現をして発信する。その繰り返しがもうすでに小規模校ではこういうふうに行われてるんですね。今大規模校では出来るだけ少ない人数で教えましょうというふうになんかちょっと変わってきてます。言い方変えると習熟度っていうのもあるんですけども、少人数とかにして替わりの先生がいて、3学級を4つに分けて出来るだけ少なく、究極は少人数指導になっていくんですけども、こういうふうにくんと変わって行って、出来るだけそういう場を保障してあげたり、学ぶ一人ひとりの学びに応じた手立てをとるようになってきています。ただそれも先生がいなくなかなか出来ないんですね。今(釧路市立)昭和小学校なんですけども、教室がないから3学級を4つに分けても4つ目の教室がないんです。だからなかなか出来ないという。そういうハードルもあるんですけども、今そういう少人数でそういう研究していることは大規模校でも必ず役に立つ。それは今、中川先生もおっしゃったように、そういういろんな見方っていうのはあるというふうには感じています。

正答主義からの脱却

今泉 中川先生、それから学生の皆さんお疲れ様でした。複式授業のですね、よい面とともに課題も感じました。特にいいなと思ったのは、間接指導の重要性を今日のフォーラムではっきりと掴むことができたこ

とです。一見、へき地校の否定的にもとらえがちな間接指導がある意味では子どもたちをぐんと成長させ、共同の学びに転化させる重要な役割を担っていることを改めて意識させられました。

先ほどその小規模校の場合は、討論が結構大変だとか、意見を出し合うのが大変だということが出たんですが、それは何も小規模校の問題だけではなく、渥美先生が先ほどおっしゃったように、それは日本の教育全体が解決していかなければならない問題だと思うんです。

わかるように、できるようにするために、子どもに正しい答えを要求するあまり、「正答主義」の教育に陥っている教師も見られます。子どもたちは、正しいことでなければ結局は駄目なんだっていうことになって、本当はその教材を対象に考えるべきなのに、先生の頭の中を考えて、先生は今何を求めているんだろうかということに発言する。間違いを心配するあまり、発言が少なくなっていくんだと思うんです。それを克服するには、教師や友達と意見が出たらいつも評価する、そのような努力の中で自分なりの意見を持ち、物事を深く探求する子どもたちが育っていくんだと思います。勿論、教材が重要で、子どもたちの興味・関心、知的好奇心が生まれるようなものが求められています。

繰り上がり指導は筆算がいいのでは…

最後に一点だけ言わせていただきたいと思うんです。かけ算の指導については、1あたりの数だとか、いくつ分だとか全部の数だとかが押さえられていて、とても良かったなと思います。ただ繰り上がりのところなんですけど、やっぱり筆算でやった方が分かりやすいと思います。

いずれにしても位が移動するってことが、繰り上がりの本質的なことですから、それが分かるように指導することではないでしょうか。中川先生の指導の仕方が駄目だってことではなくて、今の教科書自体がそういう形になってるわけです。暗算主義が完璧に克服出来てないっていう問題点があります。(写真19)

川前 はい、有り難うございます。予定時刻からもう9分進んでしまいましたので、このへんで終わらせていただかなければなりません。最後にパネラーの先生方からお1人ずつ今日の全体についてのコメントを1分ぐらいずついただいて、閉めたいと思います。



写真19 今泉博氏

物事の本質、根本が大事

渥美 今日は大変有り難うございました。こうやって前でお話させていただくと、本当に勉強になります。授業を見させていただいて、前でお話をさせて頂いて、少しでも価値ある内容を話したいし教えていただきたいし。そう考えた時には、やはり物事の本質とか根本とかを常に考えていかなきゃならないと、そういう思いを新たにしました。

リーダーの話であれば根本にあるのは学び合いです。その根本にあるのは人間関係ですね。

学習ルールについてだったら、本質は許可と禁止です。それを身につけていくうえで、禁止ばかりしてる自分に気づくんですね。子どもたちがきちんと学習ルールを身につけていくのには、成功体験の連続的な保障です。上手くいったという経験が子どもたちに何度も保障されていくと、ああこれがいいんだって染みていきます。

指導案のことで考えれば、指導案は本質は計画です。授業がどうだったのかは、きっと授業記録の方が大事なんではないか。常にそうやって物事の本質、根本を考えて今後も教育にあたって学んでいきたいと思っています。今日は本当に有り難うございました。

地域のよさを学び、そのよさを自分の言葉で伝えられる教師に！

滝川 今日どうも有り難うございました。へき地小規模校教育のフォーラムで若干へき地について触れたいと思います。

北海道の小学校の約半分、それから中学校でいけば約45%がへき地校に指定されているんですね。ですから学生の皆さんがこれから教員になって学校回る時、2校に1校はへき地だと、そういうことになります。都市部、大規模校のへき地校もあるんです

けれども、そこがへき地小規模であったり、複式の形態を持つて学校っていうのは多いです。そういう中で入っていくんですけども、今ずーっと出てきました、へき地小規模校で行われている、一人ひとりを大切に学習指導、生徒指導、それから少人数指導、あとは複式指導っていうのは必ず大規模校でも役に立ちます。今見て本当に自分の経験、直接子どもには指導していませんけども、その観点や子どもの見方っていうのは必ず役に立っています。大規模校にまた行く先生もいると思います。大規模校で学ぶこと、それは例えば沢山の先生からいろんな刺激を受けながら成長していきます。それから多人数の子どもの担任になりますから、そこからでもいろんな学びがあります。学級経営、教科経営、そういうものを学んで小規模校に行く、するとまた豊かな学級経営が出来る。そんなふうにいると大規模校や小規模校を回って行きながら、それぞれのよさっていうのを伝えられる教師になってもらえばいいのかなって思います。特にへき地校で求められる教師は、へき地に赴任する場合は大体生活もそのへき地で、教員住宅に住むことです。市内だと学校から離れるんですけども、へき地の教員住宅に住んで生活そのものはその地域の一員になっていくと。そういう中でそういう地域に受け入れられて、やっぱりその地域のことを勉強して、地域を学んで、そしてその学んだよさを自分の言葉で子どもに伝えていくと。そういう教師が求められます。是非、へき地校に赴任になった先生、またはきつと行くことになると思いますが、へき地のよさを知り、そして子どもたちがへき地つまり自分の住んでいる場所に誇りを持つてそんな子どもを育てていただければなと思います。今日はどうも有り難うございました。

子どもたちがすべての出発点！

中川 今日には本当にどうも有り難うございました。今、奥の深い話を聞かせてもらいました。

実は足し算、いろんな指導法があります。あのような筆算の形式で教えたことも実はあります。私、実は、1, 2年生専科みたいなもので、前任が標茶小学校だったんですけどもそこも1, 2, 1, 2, 1, 2と。そして磯分内小学校に行くと、また2, 3年生の複式、ちょっと高学年いったんですけど、また1, 2, 1, 2みたいな感じで、ずーっと1, 2年生を持って。どういう方法がやっぱり子どもたちに一番わかるのかなって、日々悩みながら子どもたちと考えながら、反省しながらやってきています。確かに教科書は10までの数で登場してくるんです

ね、一番最初に幾つかなって勉強でね。そうすると、9と10が同列で扱われているんですよ。でも、実は10っていう数字はすごく難しくて、1の位が空位であるという数字ですよ。だからまた0っていうのは物凄く難しくて、ないっていうのを捉えるっていうのは1年生の子どもたちにすごく難しいですよ。感想文の中に、「何で1本当たりが0のやつが出てたんですか」って、どっかに書いてあったと思うんですけども、その0の勉強する時にも、いや皆手出してもらって、「今日美味しそうなケーキ持ってきたねー」と言っても、(子どもたちは)「ないない」って言うんだけど、「いやケーキ見えるよ、先生には」。0個っていうような話をしながら0の勉強をしたりしました。教科書は本当に10が9と同列に扱われています。でもタイトル並べてみると、よく子どもたちは劇にしてやるんだけど、1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9人、おうちにしてしまって1の位、10の位おうちにしてしまって、8人遊びに来たよ、9人遊びに来たよって、だけどもうこれ以上住めないねって大きな家を作っておくんだけれども、どうなるって言ったら隣の部屋引っ越そうねっていう話になって、初めて引っ越してそこで10が登場してくるんですけども。そんなことを考えると、今日の指導とは矛盾するかなと思います。今回の子どもたちはこういうふうにやっているんですけども、やっぱりどう教えたらいいか、そこは子どもが出発ですよ。今の1年生がどういうふうにしたらこれ分かるかっていう、その目の前の子どもを出発点にして考えてプラン立てていかないと、これが絶対いいんだっていうふうには僕は決めつけたくないと思っています。

五二進法っていう方法もありまして、それで教えたこともあります。遠山啓さんの水道方式ですね、それを使ってやってみたこともあります。どれがいいのかなって日々悩みながらやっています。

大事なのは目の前にいる子どもたち、この子どもたちにどういうふうにするかが全ての出発点だということ、そしてスモールステップで行けたらいいなというふうには思っています。

終わりのまとめみたいな感じになっているんですけども、どうしてここに僕が居ているのか非常に疑問なんです、本当にね。もっともっと素晴らしい先生方沢山います。本当に実践持つて先生、沢山の先生います。でも僕が絶対負けていないのは、学生の時にうんと遊んだことです。酒飲んで、酔っぱらって、パチンコやって、そんな遊びじゃなくて、本当に寝袋背負って全国放浪して、大学の先生方にはも



写真20 会場の参会者



う心配ばかりかけていたんですけど、卒業できるのかとか実習行けるのかとかいう話だったんですけども、そのことが今子どもたちと向き合う時に一番生きている経験かなと思っています。だから、大学で学んだ一番はそこだと思ってるんです。

だから、ごめんなさい。さっき単位カード悪かったんですね。その放浪することがいいっていうのではなくて、だから是非あの学生さんには、本当にいろんな経験をしてもらって現場に来て欲しいと思います。

人間性ある先生、子どもたち大好きです。本当に難しいことばかり、こう真面目な顔で言う先生よりは、勉強教えるのが多少下手かもしれないけども、楽しい先生の方が大好きです。だからそういう学生の時でないといけないことを、うんと沢山やっていただいて、是非また現場で一緒に出来たらいいなっていうふうに思って、今日の僕からの最後の話にしたいと思います。

本当に今日子ども役やって下さった学生の皆さん、どうもありがとうございます。(写真20)

高嶋 遠く沖縄から来た先生にも一言いただきたいところですが、時間が来ましたのでこれで閉めたいと思います。

最後に、まとめはどうしたと今回も言われそうな状態ですが、前回と同様に、この場ではまとめることはせずに、事務局のメンバーと相談しながら、今日のことは一つの形にして、へき研の紀要に載せさせていただくことをお約束して、責任の一端を果したいと思います。

かなり絞った形で今回議論していただきましたけれども、最後にはその絞ったものをぶち破るといいますか、教師としての資質はもっとそれ以上に、さらにいろいろな面があるぞという、そういうお話までいただきました。私たち自体も、学生諸君に何が

必要かということを改めて考えさせられましたし、彼らと一緒にあれもしよう、これもしようということをもた言えるのかなというふうにも思っています。本当は、もっと長い時間取ればよかったんですけど、短期集中型でこういう場を作っていただきました中川先生、滝川先生、渥美先生、児童役の学生諸君、そして遠方からお見えになった先生方をはじめ参加された皆様に厚くお礼を申し上げ、閉めさせていただきたいと思います。本当に有り難うございました。

司会 パネルディスカッションにご参加いただきました先生方、どうも有り難うございました。

それでは閉会にあたりまして、北海道教育大学学校地域教育支援センターへき地教育研究支援部門、部門長の村田文江よりご挨拶致します。

村田文江部門長 長時間ご苦勞様でした。簡単にご挨拶申し上げます。(写真21)

最初に先生方本当にご苦勞様でございました。それから学生諸君有り難う。今回の企画は、あなたたちがあってこそ出来るものでした。

実は私共は通称「へき研」と言っておりますが、



写真21 村田部門長

へき研の来歴は、本学が学芸大学として発足しその後教育大学になり今日に至る北海道教育大の歴史と同じ時間を共有しております。へき研があった場所は元札幌校があった山花という地区にありましたが、その後大学の移転と共にあいの里へ移りました。山花にあった時はへき研という施設は一軒家だったんですが、あいの里に行ってからは間借りになりました。その後岩見沢校にへき研が移りました。その後平成20年に岩見沢校から釧路校に移って参りました。ですから今年丸3年経ったところですね。私はそのへき研が今釧路校にあるという意味を本当に皆で考えていきたいと思っております。

釧路校にあるというのは、道東地区といたらいいでしょうかね、十勝、釧路、根室、私はそこに網走管内も考えたいと思っているんですけど、へき研がここにある意味をどういうふうに中身を作っていくかということで考えています。実は私も岩見沢校から移ってきた新参者でございます。へき研の教育活動に生かすということを考えている中で、私は、少なくとも年に1度はフォーラムをへき研として主催出来る、そういうセンターでありたいと願っております。実を言うと、これまで1年目も2年目もやって参りましたが、私は高嶋先生、川前先生は今日のフォーラムは最高だったんじゃないかと思うんですね。釧路校のすぐそばの学校から先生方お招き出来ること、学生諸君も実習に行ったりしているということで、私たちも大学の教員もここにいるという、そういう意味では、何て言いましようか、3年目にして私の願ったことがある意味完璧に、今までに比べればですよ、完璧に出来た時かなってことを、大変私自身喜んでおります。

年に1回のフォーラムはやりっぱなしではなく、記録に取り、記録に残していくことが私は凄く大事だと思います。私もへき地教育の専門では全然ないんですけど、いろいろ紐解くと、実は今言われていることというのは、これまで沢山のへき地教育、複式教育に当たられた先生たちがいろいろ言われてきたことばかりで、ある意味新しいことは何もないというふうに思っております。ただないけれども、ないのに深く継承されていないことをどう捉えるかっていうことだと思うんですね。そういう意味では記録を残し蓄積するということは、単に引き継ぐだけでなく、引き継ぐ中から今の子どもたち、今の学校、今の地域が抱えているところに新しい意味を私たちがもう一度読み直していかなきゃいけないんじゃないか、と常々考えております。そんな訳でどうぞ、へき地教育支援部門で私たちの名前に支援

という名前がついたのは、勿論学生教育の支援もありますが、おこがましいようですが現職の先生方の研修に支援の「し」ぐらいお役に立てるような、そんな活動を作っていきたいなと思っております。

また、逆に継続して何かが作れるのは、大学という機関だからこそではないかというふうに思っているんですね。先生方がやっぱり転職をする中で、そういう形で繋がれていく場合もありますが、そうでない場合も結構あるように感じています。

簡単にと言いつつ、すいません長引いて。最後に申し上げますが、今年10月、全国へき地教育研究連盟による全国大会が北海道で行われます。会場は上川管内にあります。へき地複式という必ず本州からは、北海道と言われておりますので、恐らく北海道のへき地複式教育、或いは小規模校の教育についての期待を持って、全国からいろんな先生方がいらっしゃると思いますが、是非私たちもそこに参加をして、いろんな議論に学びたいと思います。出来ることなら、そうですね、次の全国大会は、道東地区で会場校は引き受けられるだけの、そういう力量をつけた私たちも教員養成に励みたいと思いますし、現職の先生方とも議論を続けていきたいと思っておりますので、どうぞ今後とも私共のへき研、それから釧路校をご支援いただきますようお願いして、終わりのご挨拶と致します。有り難うございました。

司会 それでは最後に本日模擬授業をしていただきました中川先生、そして参加の皆さんに拍手をもってお礼としたいと思います。本日はどうも有り難うございました。

では、以上を持ちまして北海道教育大学へき地小規模校フォーラム「複式授業と少人数指導のあり方」を閉会致します。どうも有り難うございました。(写真22)



写真22 中川先生と模擬授業の児童役学生

(新聞記事)

北海道通信 平成23年 2月18日 【金曜日】

複式授業の在り方探究 大学生相手に模擬授業など

へき地・小規模校教育フォーラム開催 教育大釧路校



1・2年算数の複式模擬授業



パネルディスカッション

【釧路発】道庁大釧路校は十六日、同校を会場に、へき地・小規模校教育フォーラムを開催した。「複式授業と少人数指導の在り方」をテーマに、模擬授業やパネルディスカッションを実施。参加者は質疑や講義を理解するとともに、へき地・小規模校教育への関心を新たにしていた。

同校では学校・地域教育、少人数指導への議論と認識された。標茶町立磯分内小の研究支援センターを中心に「を深める機会」として、中川並樹教諭が児童の学習に実習協力校として「へき地」市内の小中学校教師と生を相手に、「たじろん」き地校体験実習を軸とし、や同大学生など約五十人が「一年生」と「かけさん」た各種取組を展開。今回の「参加した」フォーラムは、複式授業と「前半は、模擬授業が行われ」実施した。

参加した学生数は、現在複式授業の指法や教材内の級分内の一・二年生と同数の五・六・一・二年生とでは繰り上げのある方法の計算。二年生は二、四、五の歳の九九の学習を行った。

中川教諭は、タイや串団の形取り取った色画用紙などの教具を用い、一年生と二年の間を繋ぎ合わせるよう指導。学生も、すっかり児童になつた様子で受講していた。

後半は、中川教諭、釧路市立昭和の滝川教諭、市立昭和小の滝川教諭、頭、釧路市立普野小の深妻清孝教諭をパネリストに、

複式授業の指法や教材内容と近付いた。児童の児童への接し方、特別教員の工夫をテーマとしたパネルディスカッションを行った。

冒頭、経田真、副校長、路校担当があいさつ。「へき地・小規模校教育関連の取り組み」をテーマに、パネリストは、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。「へき地・小規模校教育関連の取り組み」をテーマに、パネリストは、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。

経田真は、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。「へき地・小規模校教育関連の取り組み」をテーマに、パネリストは、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。

経田真は、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。「へき地・小規模校教育関連の取り組み」をテーマに、パネリストは、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。

経田真は、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。「へき地・小規模校教育関連の取り組み」をテーマに、パネリストは、中川教諭、経田真、路校担当、経田真、副校長、路校担当があいさつ。

(追記) フォーラムはDVDとして記録化されています。問い合わせは、本学の学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門事務室までお願いします。

(編集・文責：川前あゆみ・高嶋幸男)